

# 決算説明会

## 2025年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2024年11月6日

## 1. 業績の説明

## 2. 事業概況と経営戦略

# 業績の説明

取締役 社長執行役員 COO & CFO  
吉田 勝彦

## 売上高は四半期として過去最高 営業利益は2Qとして過去最高

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q	2Q		
売上高	379,747	355,454	422,783		+11.3%	+18.9%
営業利益	21,747	20,025	28,146		+29.4%	+40.6%
税引前利益	23,027	19,357	18,030		-21.7%	-6.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	16,387	13,936	12,112		-26.1%	-13.1%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	40.22	34.46	30.00		-25.4%	-12.9%

為替レート	2024年3月期		2025年3月期	
	2Q	1Q	2Q	2Q
US\$	142.47円	153.14円	154.16円	
ユーロ	155.71円	165.45円	167.59円	
タイバーツ	4.09円	4.21円	4.29円	
人民元	19.76円	21.16円	21.30円	

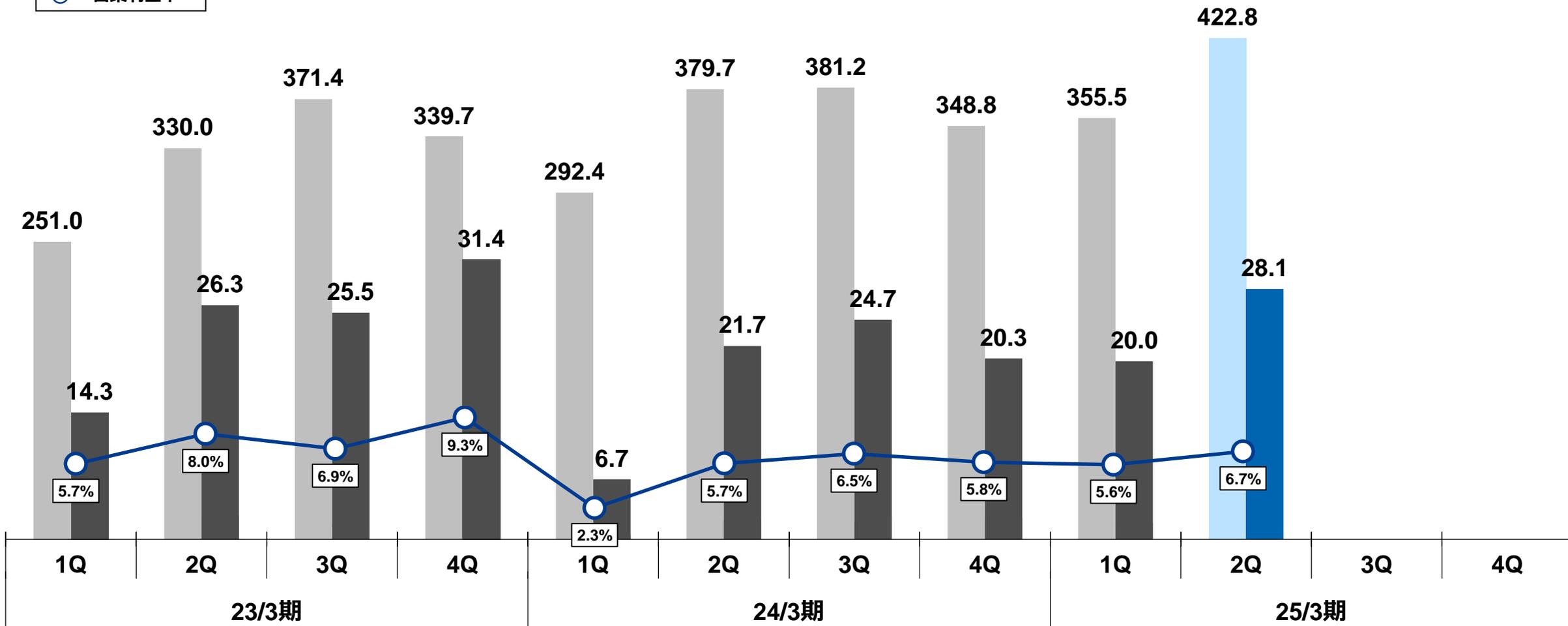
## 売上高、営業利益は上半期として過去最高

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比 伸び率	2025年3月期 上半期	
	上半期	上半期		8月予想	達成率
売上高	672,117	778,237	+15.8%	770,000	+1.1%
営業利益	28,490	48,171	+69.1%	48,000	+0.4%
税引前利益	31,529	37,387	+18.6%	46,000	-18.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	20,496	26,048	+27.1%	34,000	-23.4%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	50.25	64.46	+28.3%	84.08	-23.3%

為替レート	2024年3月期 上半期	2025年3月期 上半期
US\$	138.70円	153.65円
ユーロ	150.97円	166.52円
タイバーツ	4.01円	4.25円
人民元	19.61円	21.23円

# 売上高、営業利益、営業利益率

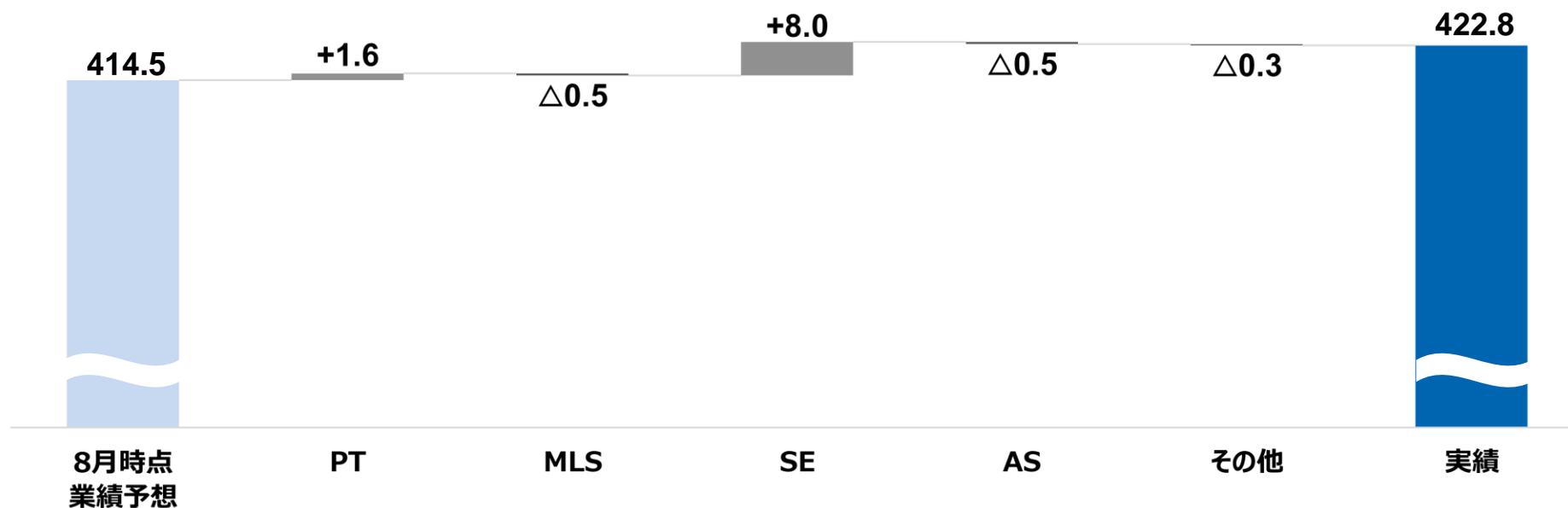
(10億円)



# 2Q実績 8月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益

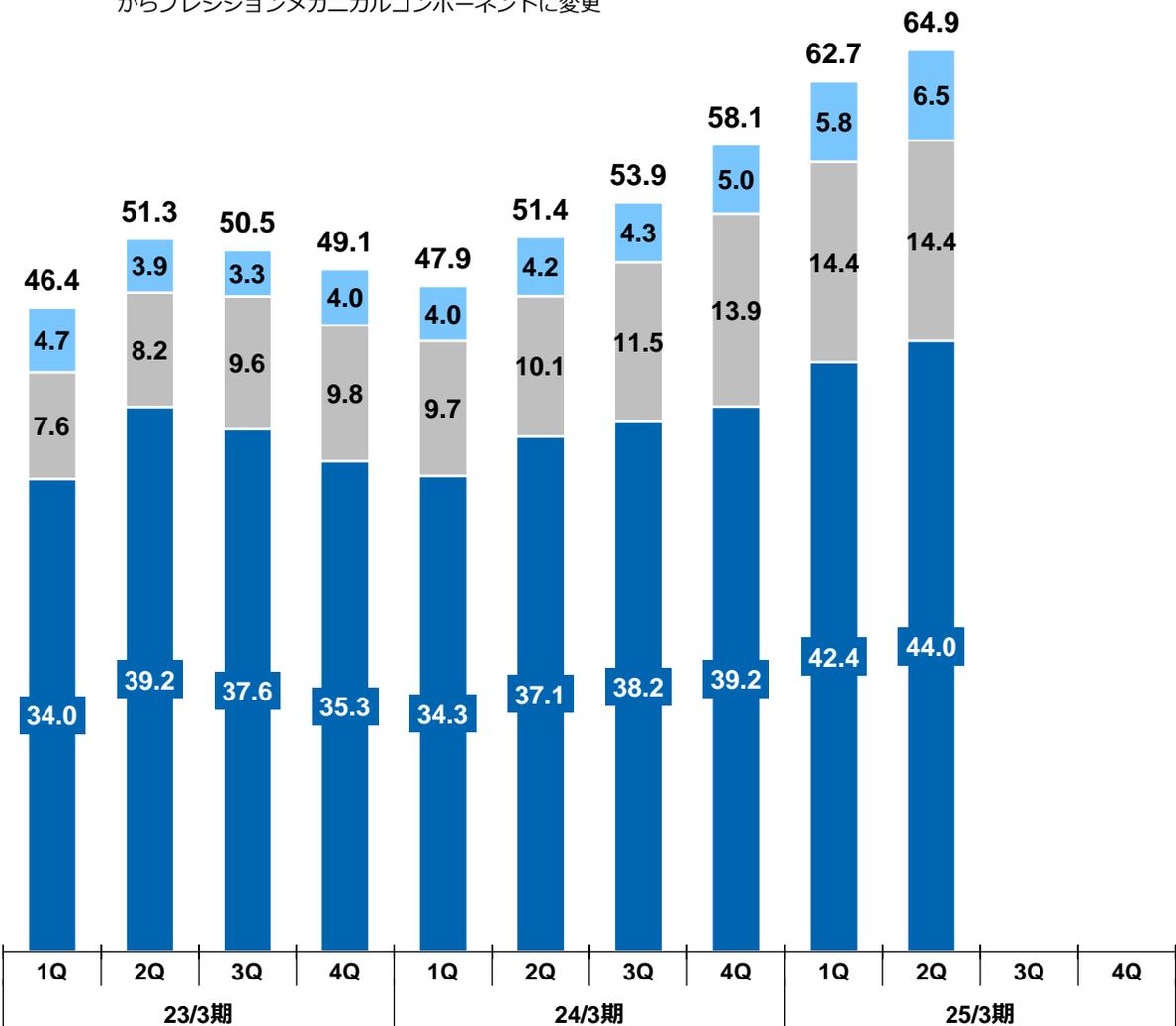


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

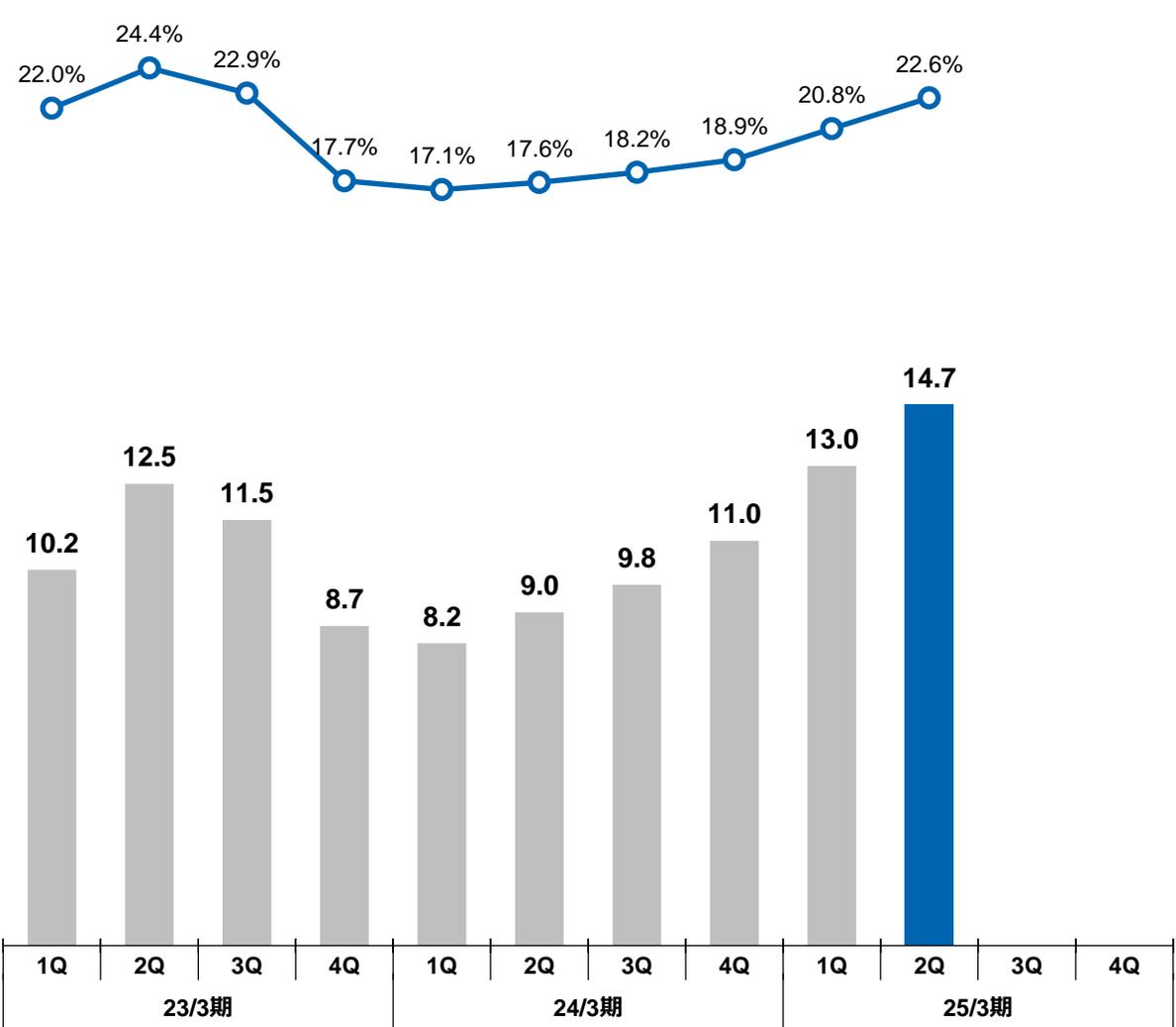
## 売上高 (10億円)



\*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更

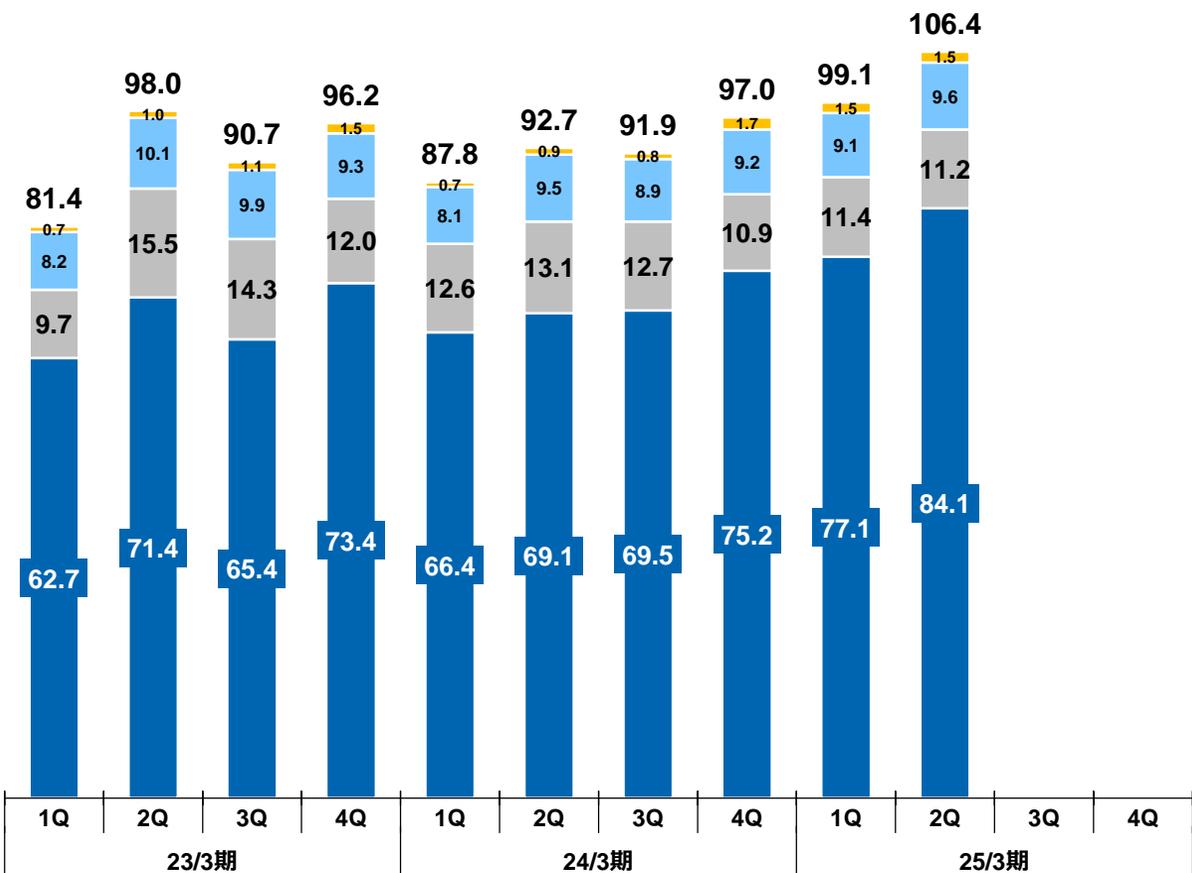


## 営業利益 (10億円)

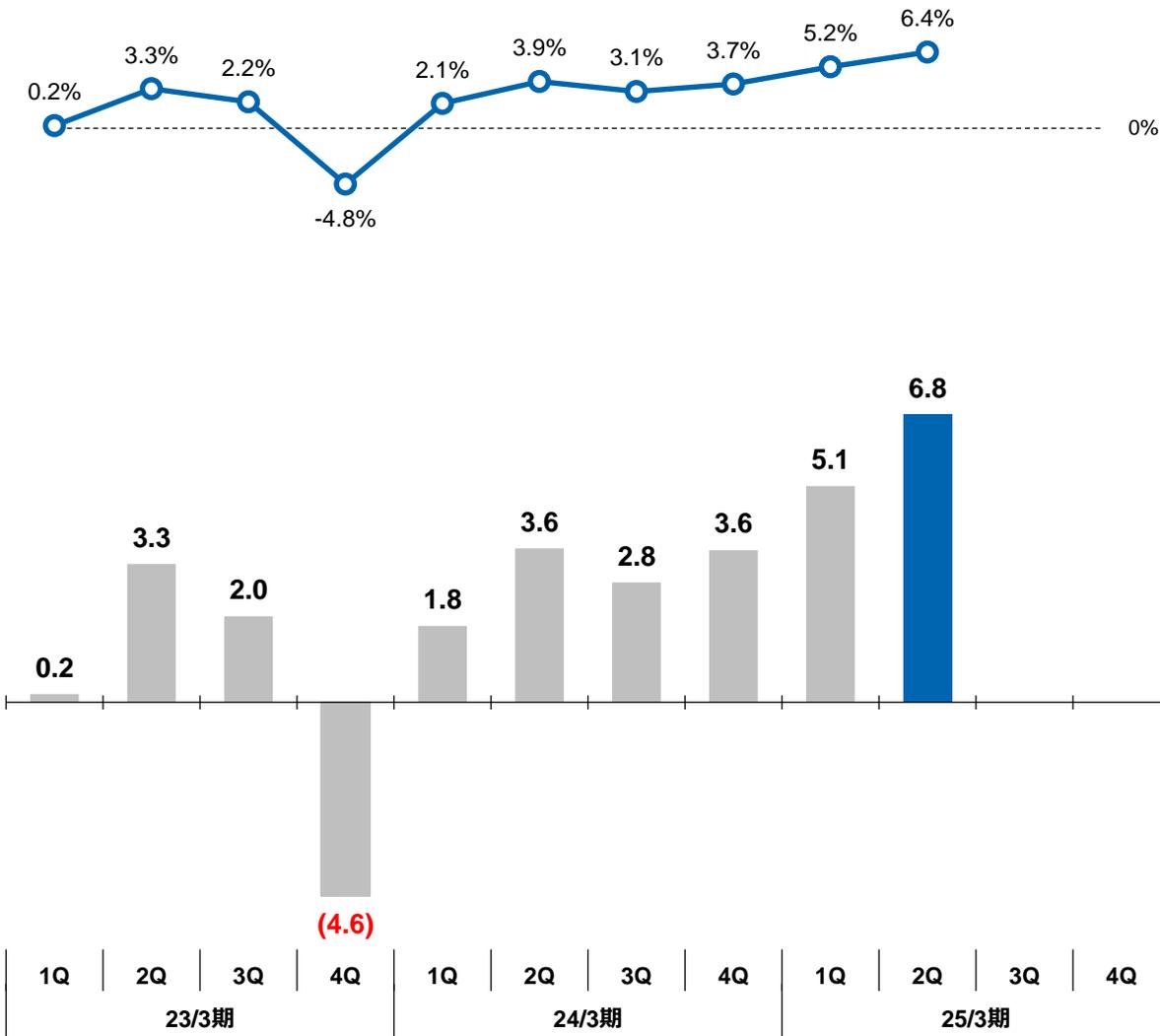


# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

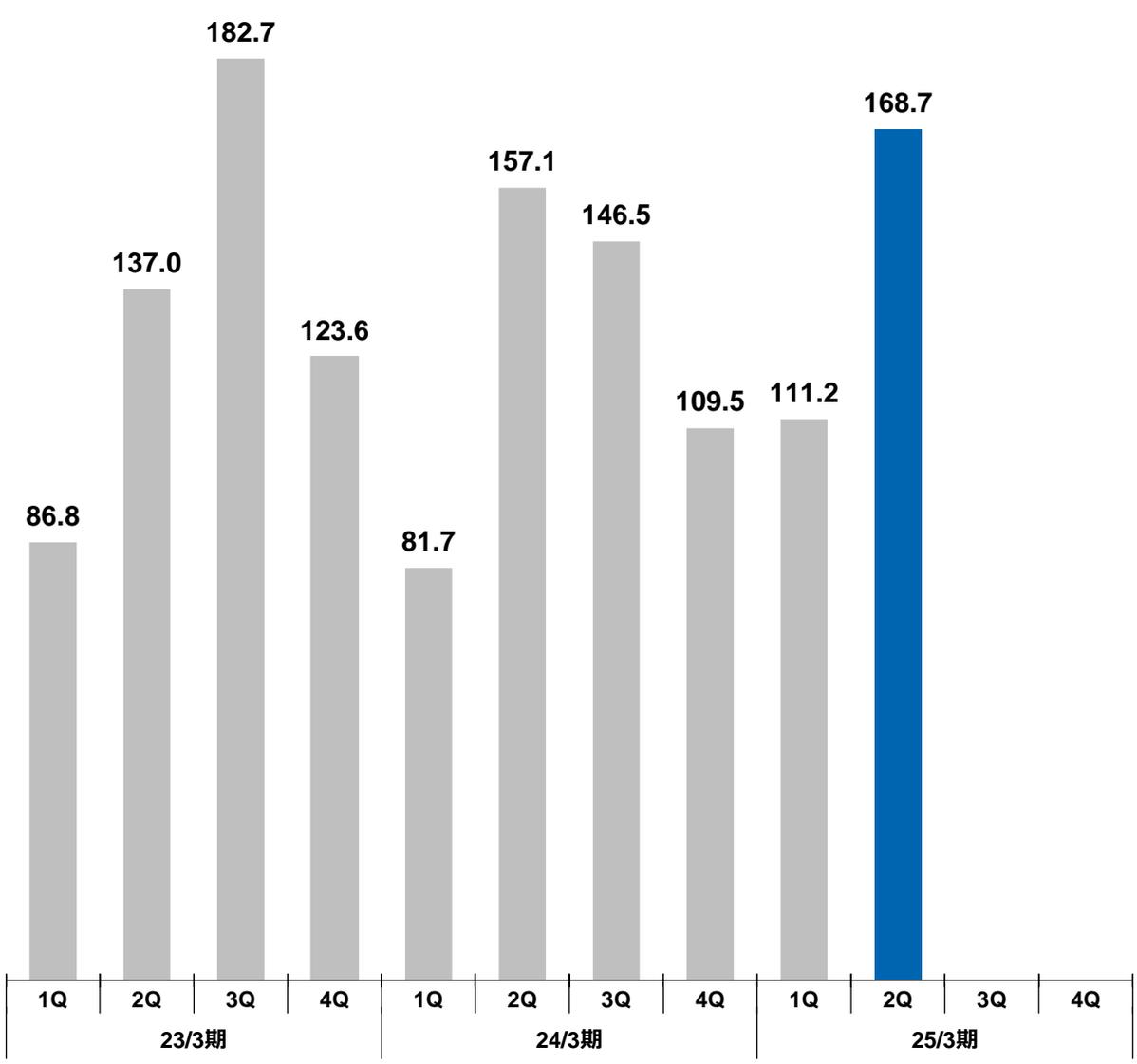


営業利益 (10億円)

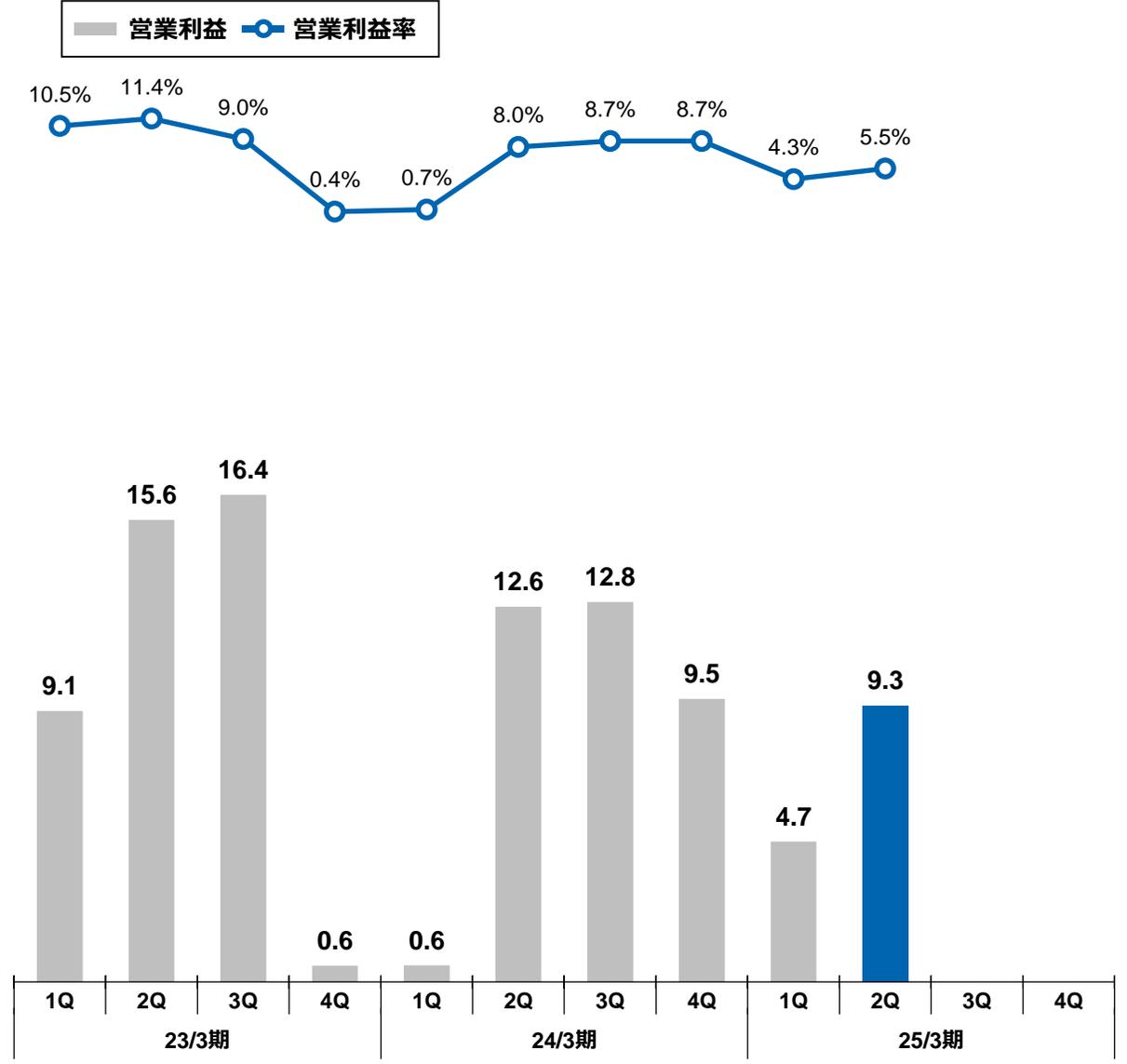


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)

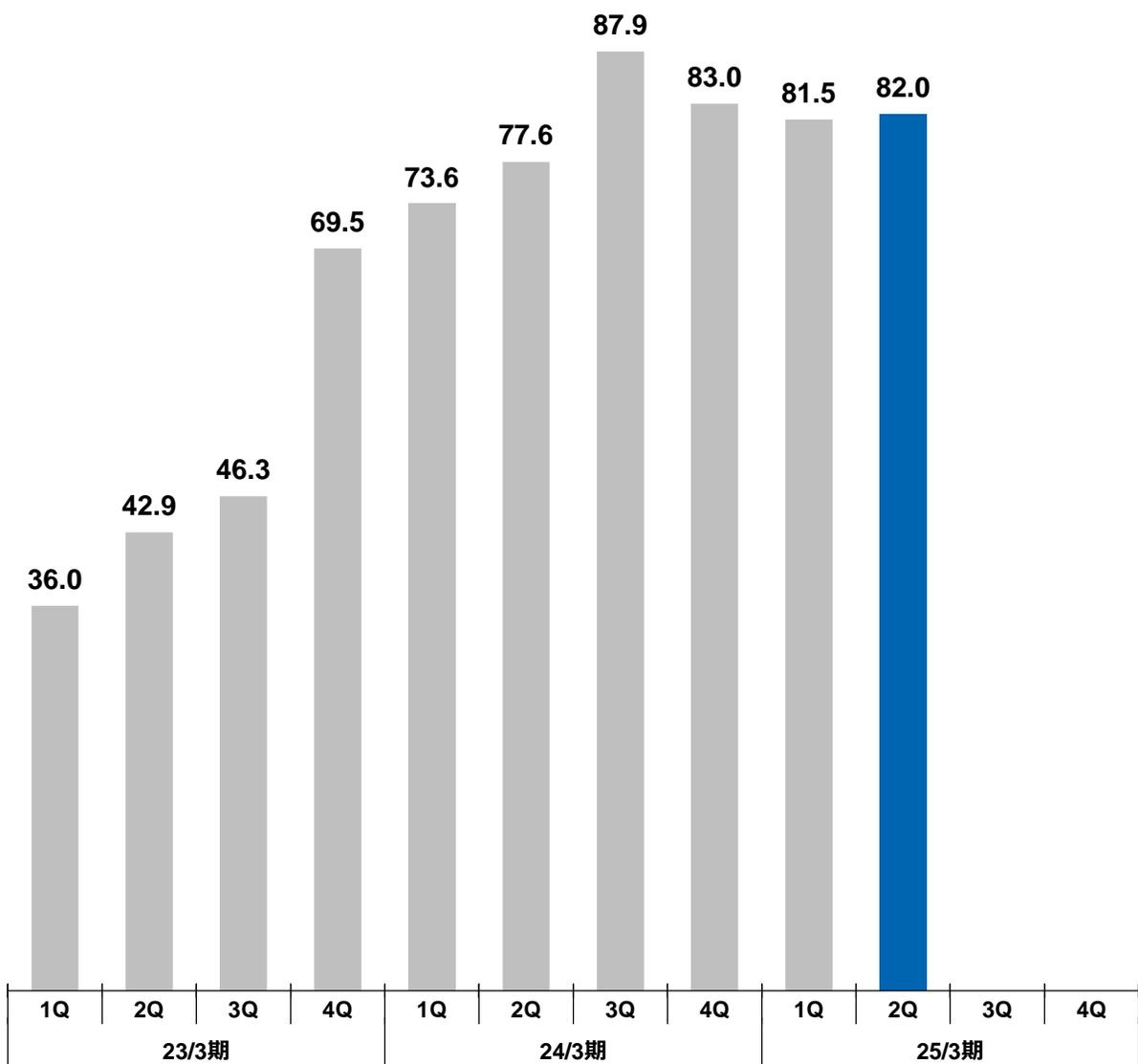


営業利益 (10億円)

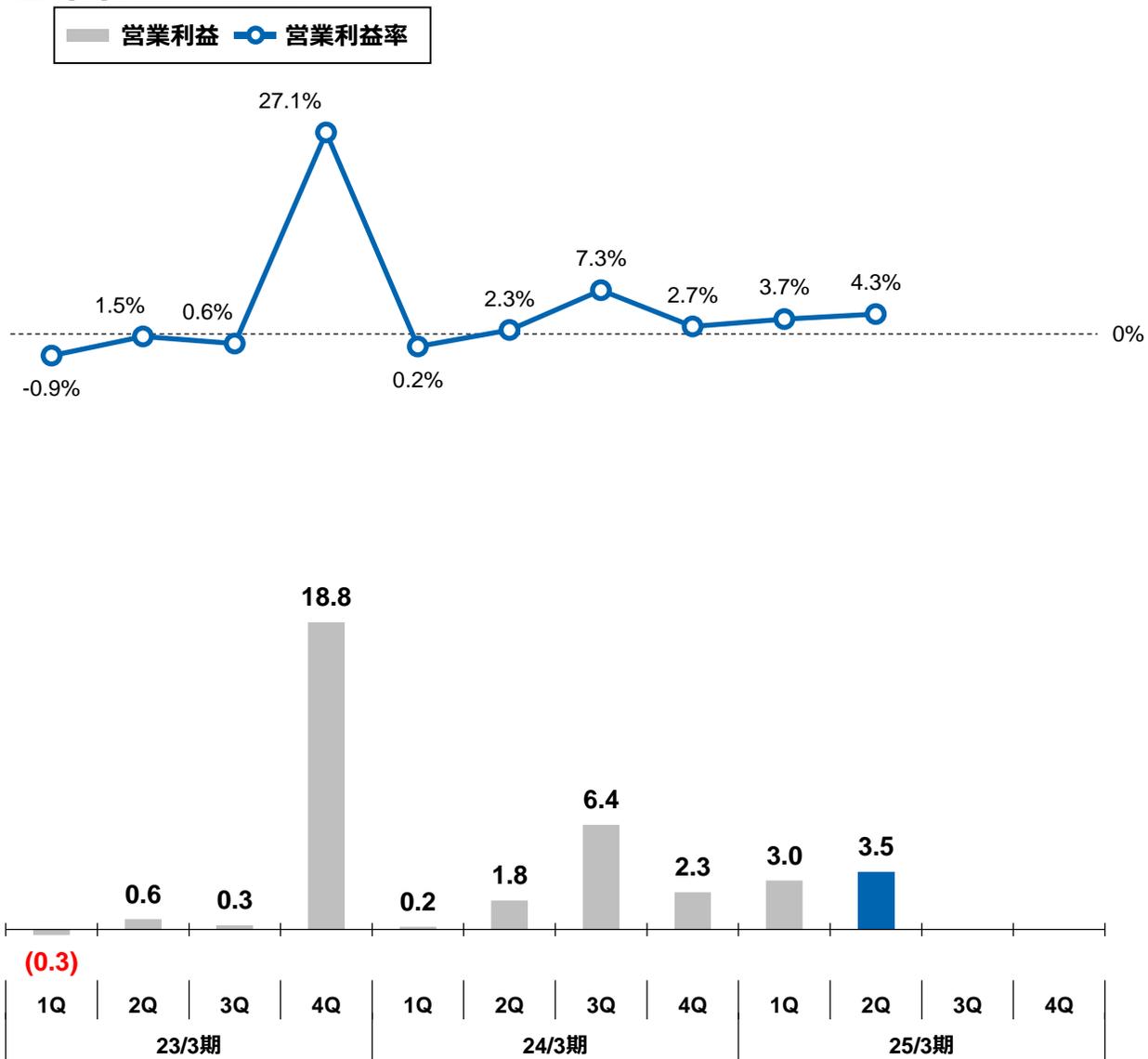


# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



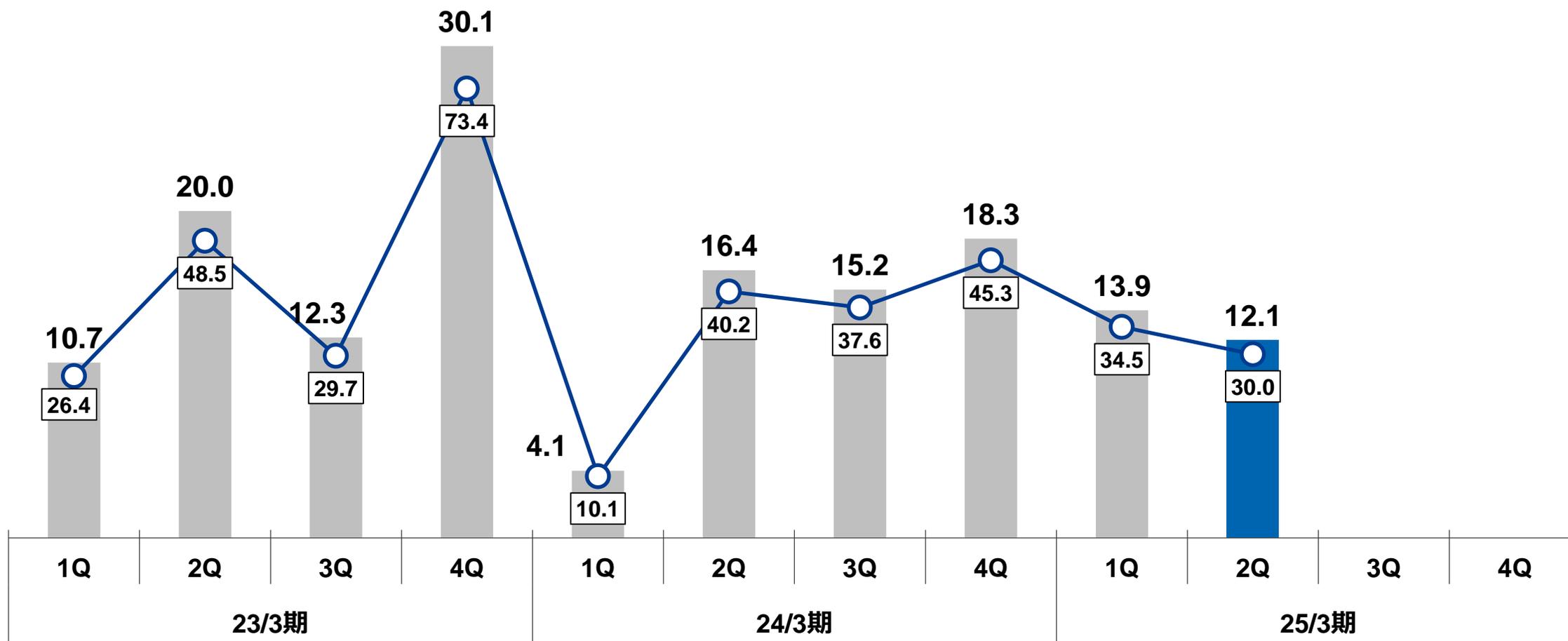
営業利益 (10億円)



# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

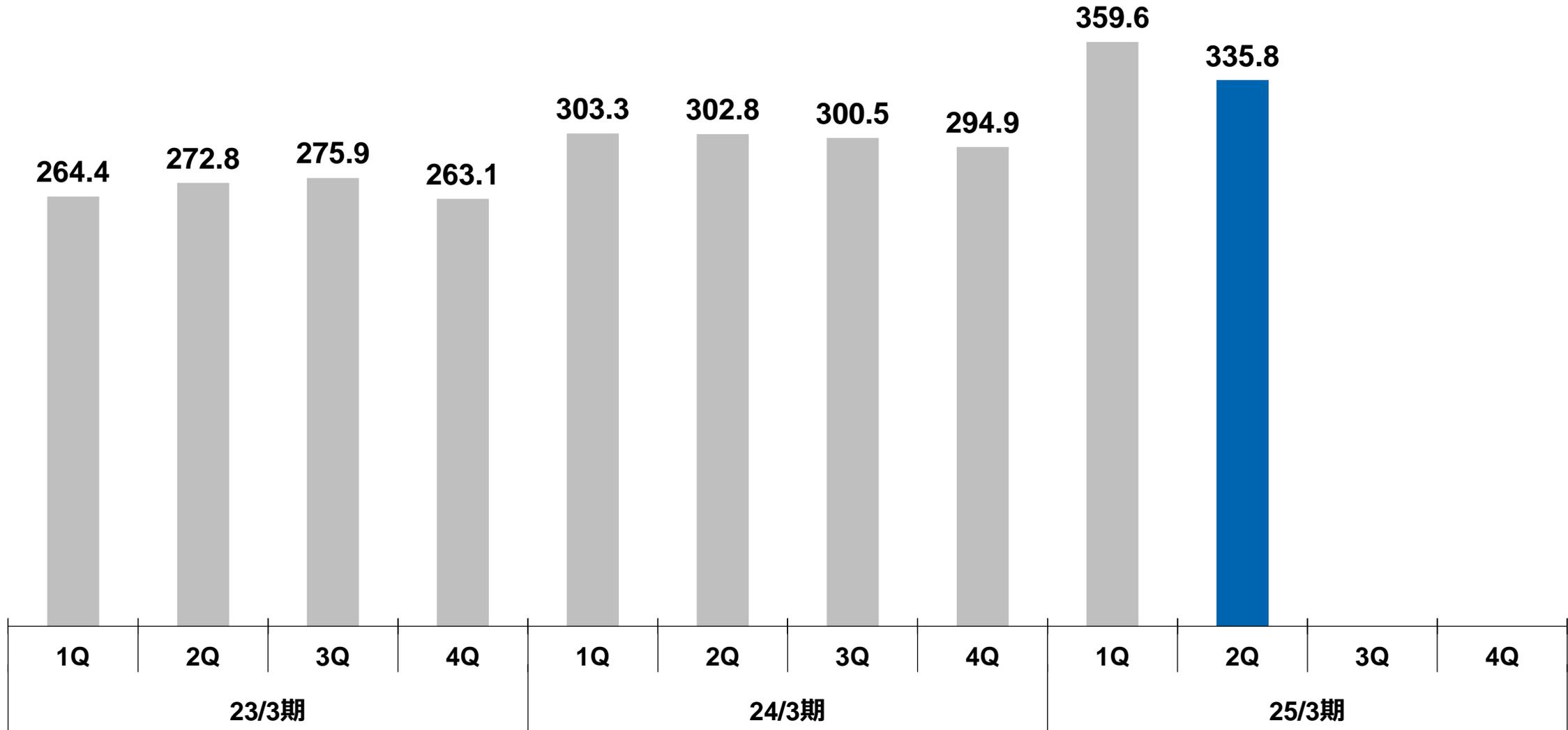
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益    ○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



# 棚卸資産

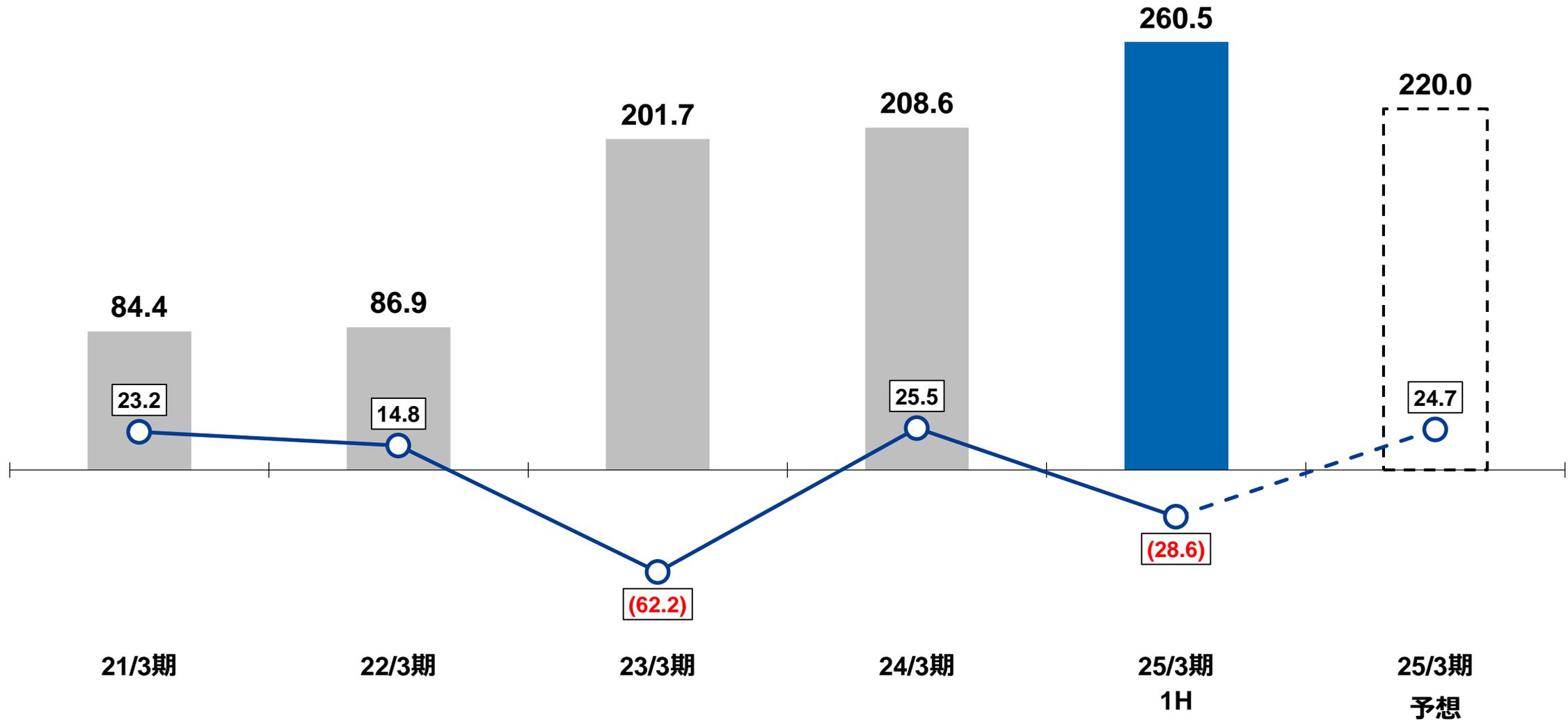
(10億円)



# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円)

■ ネット有利子負債\*    ○ フリーキャッシュフロー



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

## 通期売上高・営業利益は据え置き

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	778,237	781,763	1,560,000	+11.3%
営業利益	73,536	48,171	54,829	103,000	+40.1%
税引前利益	75,545	37,387	52,613	90,000	+19.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54,035	26,048	39,952	66,000	+22.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	133.05	64.46	99.13	163.59	+23.0%

為替レート	2024年3月期 通期	2025年3月期 下半期想定
US\$	143.31円	145.00円
ユーロ	155.18円	157.50円
タイバーツ	4.08円	4.30円
人民元	20.03円	20.50円

# セグメント別業績予想

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	778,237	781,763	1,560,000	+11.3%
プレジジョンテクノロジーズ	211,406	127,561	128,439	256,000	+21.1%
モーター・ライティング&センシング	369,388	205,497	209,503	415,000	+12.3%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	494,717	279,944	275,056	555,000	+12.2%
アクセスソリューションズ	322,108	163,539	165,461	329,000	+2.1%
その他	4,508	1,696	3,304	5,000	+10.9%
営業利益	73,536	48,171	54,829	103,000	+40.1%
プレジジョンテクノロジーズ	38,035	27,694	28,306	56,000	+47.2%
モーター・ライティング&センシング	11,867	11,900	12,100	24,000	2.0倍
セミコンダクタ&エレクトロニクス	35,522	14,033	17,967	32,000	-9.9%
アクセスソリューションズ	10,625	6,534	10,466	17,000	+60.0%
その他	△728	△545	△455	△1,000	-
調整額	△21,785	△11,445	△13,555	△25,000	-

# 通期業績予想 8月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



# 事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2024年11月6日

代表取締役 会長 CEO

貝沼 由久



## 全体

- **上半期は売上高・営業利益とも過去最高**
- データセンター、航空機向けは回復が継続し、PT、MLS（モーター）の収益性改善が進む
- 様々な施策により中国を中心とした自動車市場減速の影響をカバー
- スマートフォン市場、為替動向を含め先行きは多少不透明であるので、現時点では今期の売上高・営業利益予想は据え置く

## プレジジョン テクノロジーズ (PT)

- データセンター市場の回復と、車載向けのコンテンツグロース継続により、ベアリング販売数量と共に営業利益率も着実に回復し、過去最高益へ
- 航空機ビジネスの回復も継続
- カンボジア 第二工場（プルサット）の開所式を実施。PMCを含むPT事業の主力拠点へと拡大

## モーター・ライティング & センシング (MLS)

- HDD市場回復および製品ミックス改善、車載向けのグローバルニッチトップ製品が好調  
モーターの利益は今期270億円に。2027年3月期営業利益率10%に向け、着実に収益性向上
- タブレット向けの立ち上げ遅れにより、バックライトが収益の足を引っ張る

## セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)

- アナログ半導体は、滋賀工場のプロダクトミックスの変更による立ち上げ遅れにより収益性改善が遅延。競争力のあるサイドゲートIGBT技術を核とした中長期の成長戦略は不変
- サブコア事業（光デバイス、機構部品）は想定を下回る。コア事業（コネクタ、スイッチ・コイル）やスマート製品は好調

## アクセスソリューションズ (AS)

- 中国市場における減速は、米国およびメキシコ工場の黒字化でカバー。通期計画は想定通りを見込む
- 競合が苦戦する中、強固な財務基盤により当社に対し引き合いが増加

上半期は過去最高だが、下半期は多少不透明であり、  
現時点では通期売上高・営業利益は据え置き

(百万円)	2024年3月		2025年3月期				
	1H	通期	1H	前期比	2H	通期	前期比
売上高	672,117	1,402,127	778,237	+15.8%	781,763	1,560,000	+11.3%
営業利益	28,490	73,536	48,171	+69.1%	54,829	103,000	+40.1%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	20,496	54,035	26,048	+27.1%	39,952	66,000	+22.1%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益 <small>(円)</small>	50.25	133.05	64.46	+28.3%	99.13	163.59	+23.0%

データセンターの市場成長、自動車向けコンテンツグロースに加え、PMCの用途・製品ラインナップ拡大により、来期以降営業利益は600億円超えの目線に

## 主なポイント

### 1 データセンター用ファンモーター需要が加速

- AIの用途が言語→画像→映像に拡大することでデータ量が増加。AIサーバー向けに加え、従来のデータストレージサーバーの需要拡大も続く

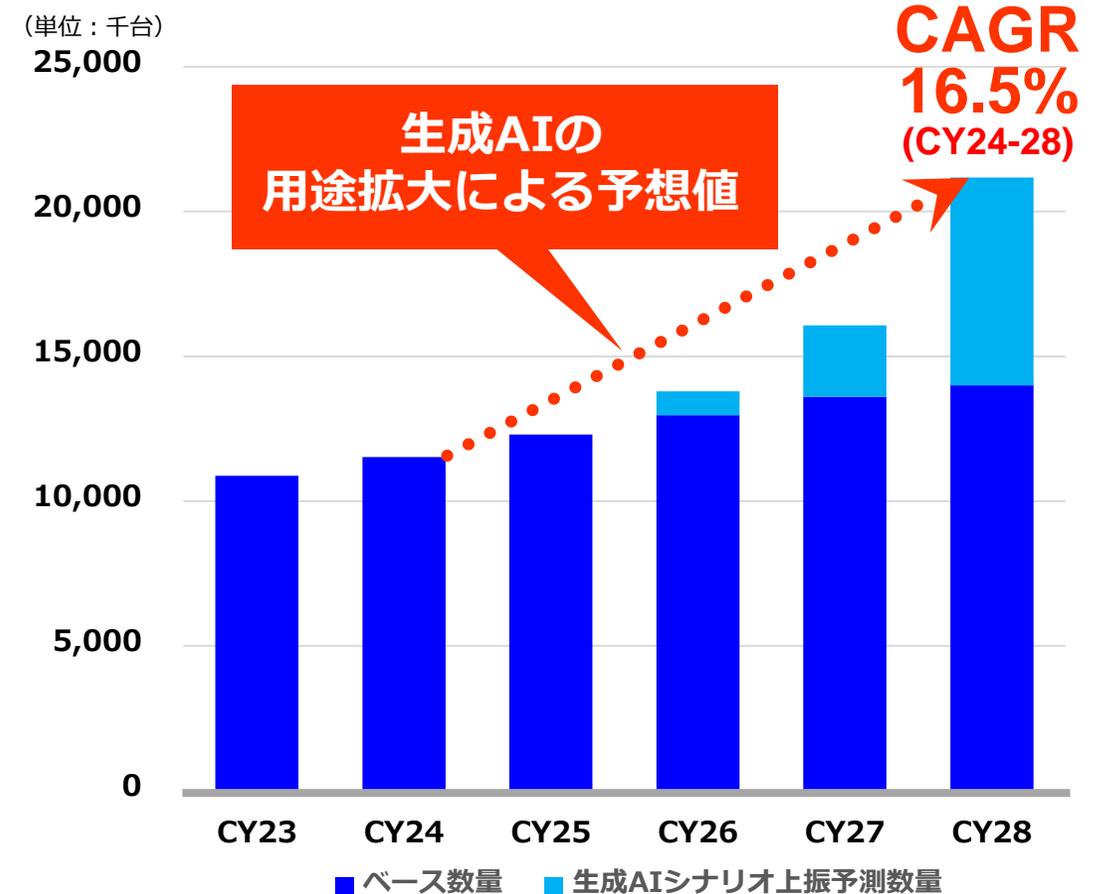
### 2 自動車向けコンテンツグロース

- エンジンタイプの変化により員数は増加 (ICE→HEV/EV)
- 安全、快適、環境に対応する電装化などによる小型モーターの需要拡大に伴い、ベアリングの数量も増加

### 3 PMCビジネスの収益力向上

- HDD市場に加え、自動車、医療など新市場へ参入
- カンボジア第二工場を主力拠点とし、PT全体で営業利益600億円を超えて700-800億円を目指すための成長ドライバーとして拡大

## 新たな生成サービスの出現等によるサーバー数量予想



出所: OMDIA、TSRのデータを元に当社作成

## PT事業の成長およびカーボンニュートラルを担う基幹拠点に

### 設立の狙い / 概況

- **進捗 :**  
起工式を9月20日に実施。25/3期中に一部建設および人材確保/教育を開始。26/3期中に一部稼働開始予定
- **敷地面積 :**  
約50ha (約500,000 m<sup>2</sup>)  
(プノンペン経済特区 (PPSEZ)の**第一工場の2.5倍**に相当)
- **狙い :**  
**PMC製品 (機械加工部品)等さらなる市場拡大が期待できる製品の生産拡大**。垂直統合生産システムや自動化設備等を積極的に活用し社内のベストプラクティスを集結。PT事業の成長を担い、**営業利益600億円を超えて700億円-800億円**を創出する柱に



完成予想図



ターボチャージャー用  
ターボシャフト



燃料噴射装置インジェクター

### 太陽光発電事業

- **自社太陽光発電事業を開始**(完成時の発電容量合計約50MW)、カンボジア国内の既存工場、および将来の工場拡張時の使用電力が100%再生可能エネルギーに。**完全なカーボンニュートラルを達成**



SchneiTec社にて設置済みの太陽光発電システム

自動車向けコンテンツグロース、グローバルニッチトップ製品増加により  
25年3月期の営業利益は270億円を見込む。27年3月期の営業利益率は10%へ

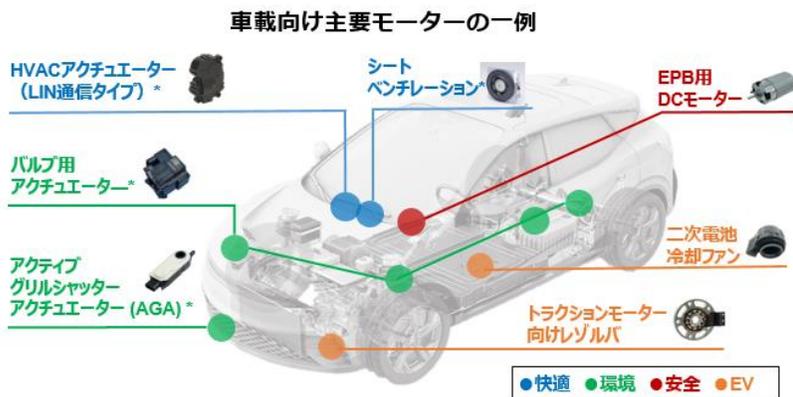
## 主なポイント

### 1 モーター：自動車向けコンテンツグロース

- ・電動化および安全、快適、環境に対応する電装化によるコンテンツグロースは今後も拡大

### 2 モーター：グローバルニッチトップ製品の増加

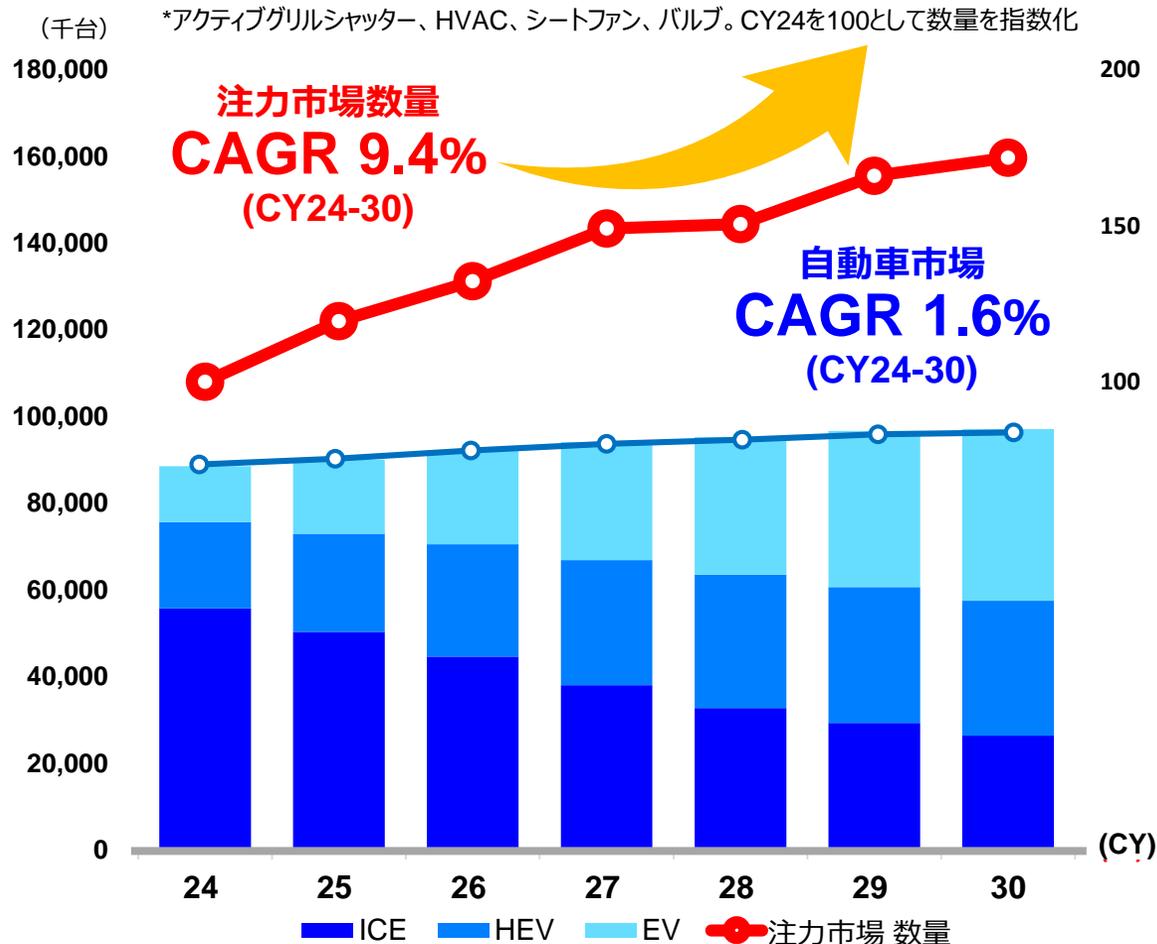
- ・競争力を発揮できるグローバルニッチトップ製品の増加により収益性向上



### 3 バックライト：タブレット向けの立ち上げ遅れ

- ・製品構成の端境期。現時点では収益の足を引っ張る

## 世界自動車生産台数と当社注力市場\*の成長性



## 近未来的なベッドセンサーシステム®で「未来の眠り」を実現

### ベッドセンサーシステムの機能が進化

バイタル情報のモニタリングに加え、測定したからだの状態や変化にあわせて利用者に最適な「未来の眠り」を提供

### 2025年大阪・関西万博 パソナグループのパビリオン「PASONA NATUREVERSE」にてコンセプトベッド（右図）を展示

- ・ センサー事業の根幹をなす技術要素であるひずみゲージを活用
- ・ ベッドに組み込まれたセンサーで、いかなる計測用器具も身体に装着することなく、リアルタイムに体重\*・体動・呼吸数・心拍数等の利用者のバイタル情報を測定・表示することが可能

\*参考体重

### これまでの産学官連携の取組が形になって実現

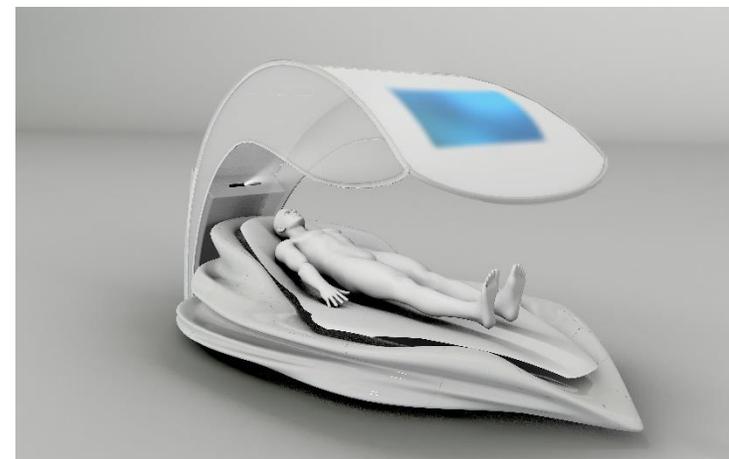
2021年 国立研究開発法人科学技術振興（JST）「共創の場形成支援プログラム」参画  
慶應義塾大学とベッドセンサーシステムを活用して共同実施中

2022年 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム  
「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」に関し慶應義塾大学と先進的な取組みを共同推進

2025年 大阪大学大学院 澤名誉教授のご指導により、2025年大阪・関西万博出展  
展示内容は慶應義塾大学予防医療センター三村名誉教授が監修



PASONA NATUREVERSE 『未来の眠り』展示イメージ



ベッドセンサーシステムを活用したコンセプトベッドのイメージ

## アナログ半導体・パワー半導体市場共に2025年以降は成長加速 得意分野で「グローバルニッチトップ」を目指す！

### 主なポイント

#### 1 半導体:競争力を発揮するグローバルニッチトップ戦略を推進

- ニッチ・カスタム領域に集中。“匠の技のすり合わせ”で顧客のニーズに応えた製品を提供することで強固なポジションを構築  
(中国勢が参入しづらいマーケット)

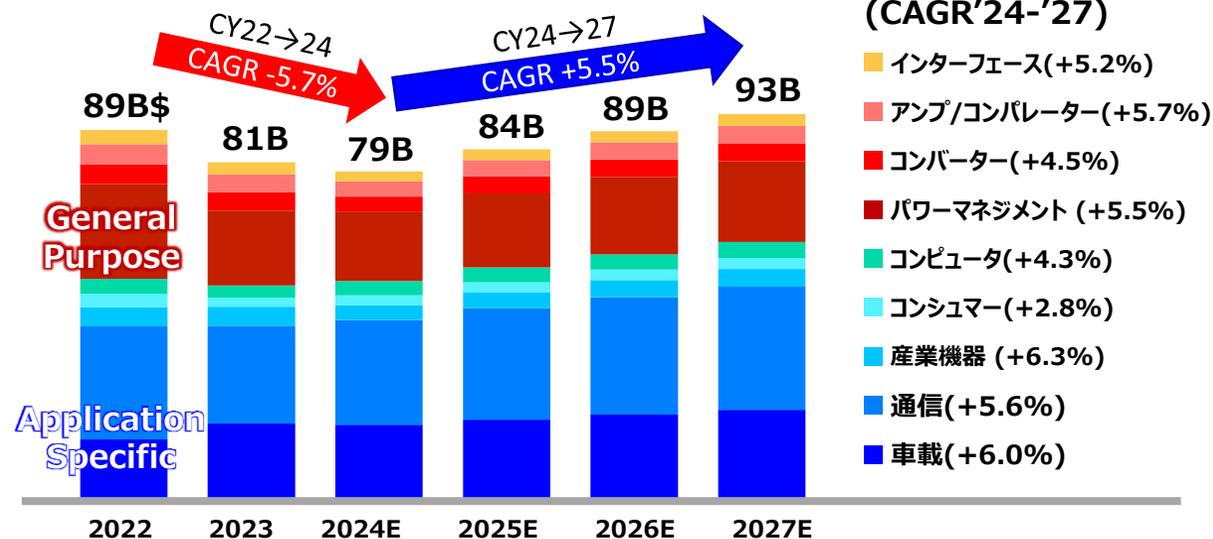
#### 2 半導体: 独自技術であるサイドゲートIGBTを核に、高耐圧・高性能製品ラインナップ拡大

- 高効率IGBTとSiCの両方を持っているのが当社の強み。EV含め我々の技術を付加価値として認めてくれる市場がターゲット
- 鉄道向けやパワーグリッド向けなどの高耐圧・高性能製品に注力し、中国勢とは違う土俵で成長する
- 上記市場の拡大と共に滋賀工場の稼働が引き上がることで、利益率は一層向上

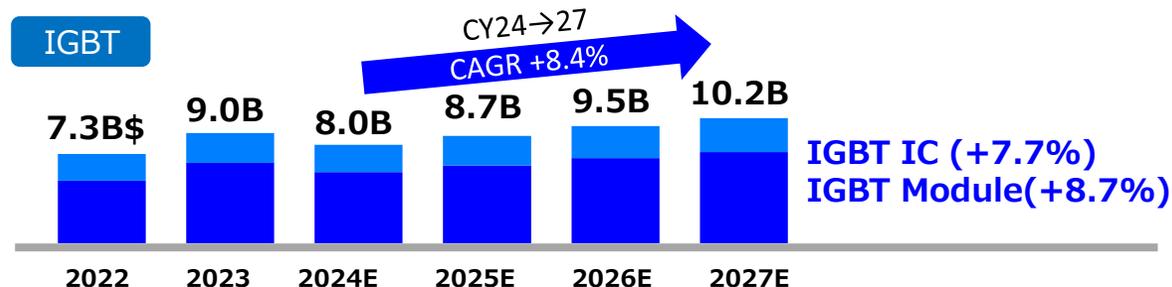
#### 3 サブコア事業(光デバイス、機構部品)は想定を下回る

### グローバル市場予測

#### アナログ半導体



#### IGBT



出所: WSTS (世界半導体市場統計)

## エイブリックがソシオネクストよりメディカル関連事業を譲受 ハンドヘルド型超音波診断用装置で、画像診断の普及を後押し



### 譲受事業に関して

- 譲受事業の内容**  
メディカル関連事業の資産・知財・従業員等  
(主に**ハンドヘルド型超音波診断装置**、及び**LSI**(大規模集積回路)の開発・製造販売事業)  
- ファブレス事業のため、生産設備保有は無し

- 競争力の源泉**  
LSIに加えてファームウェアも含めたシステムの深い知見と高精細画像生成を含む受信技術

### 狙い

- 高い技術シナジー**
  - エイブリックの**送信技術**とソシオネクストのハイエンド**受信技術**はオーバーラップせず、補完関係
  - 従来エイブリックが保有するハンドヘルド型超音波診断用ローエンド製品に加え、**ミドル・ハイエンド製品**を取得。今後、獲得したハイエンド受信技術により、超音波診断装置向け**製品ラインナップ**を拡充
- 高画素化による事業機会拡大**
  - 診断画像の高画素化、より深部までの撮影を可能**にする64ch製品を、24年下期から本格的に製品展開
  - ハンドヘルド型でも、カート型（据え置き型）に近づく性能を実現。**医療現場における画像診断（エコー検査）の普及を加速。誰でも素早く体内画像が得られることが可能に**

## 自動車の電動化は大きなチャンス 相合の成果である高付加価値製品の投入で市場の伸びを上回るスピードで成長

### 主なポイント

#### 1 エレクトロメカニクスソリューションズ®がAS分野に到来

- ・フラッシュハンドルをはじめアクセス製品の電装化は想定を上回る勢いで拡大
- ・ドアハンドルはフラッシュハンドルが主流へ

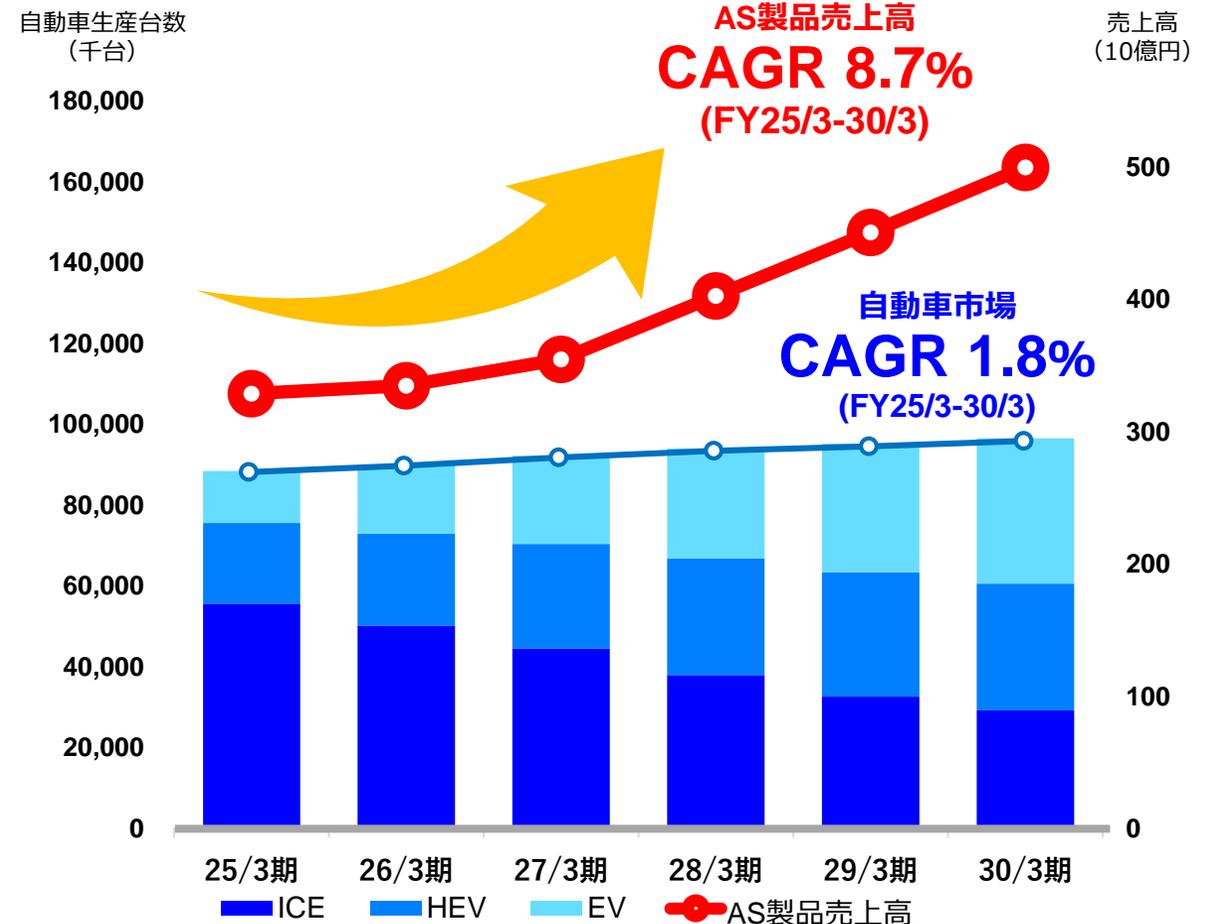
#### 2 ラッチもE-ラッチになり、ゲームチェンジの様相

- ・受注増加の見込み

#### 3 欧州競合他社の財務状況悪化

- ・財務基盤が盤石な当社への引き合いが増加傾向

### 世界自動車生産台数と当社AS製品の成長性

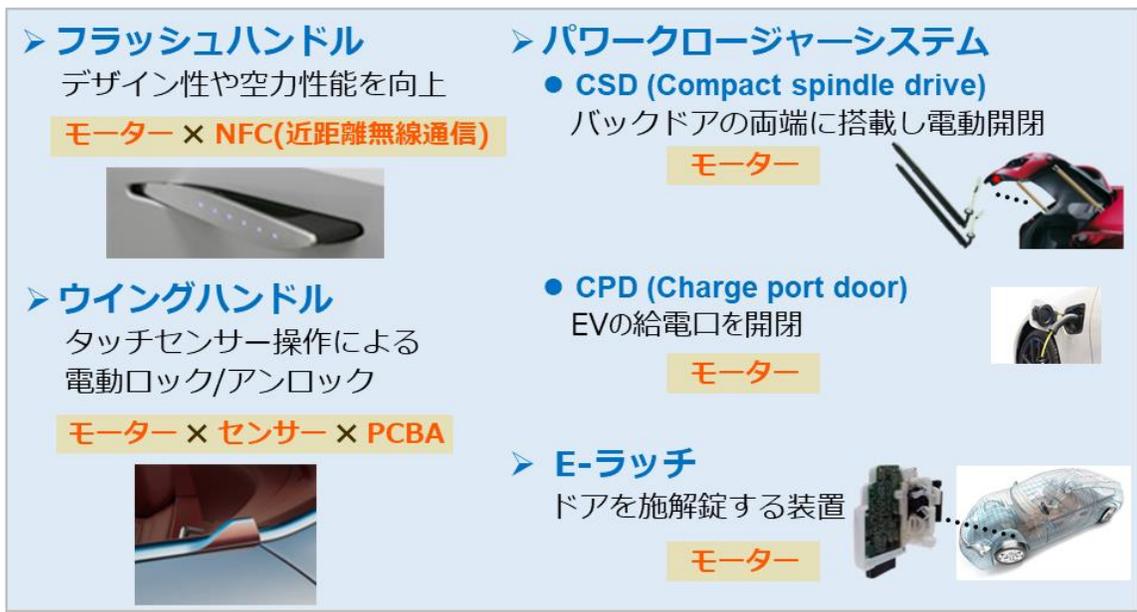


## 多様な技術を組み合わせ、新たな製品を作りだすことが出来る競合他社はいない！

### アクセス製品

#### 相合による高付加価値製品がこれから数年で上市

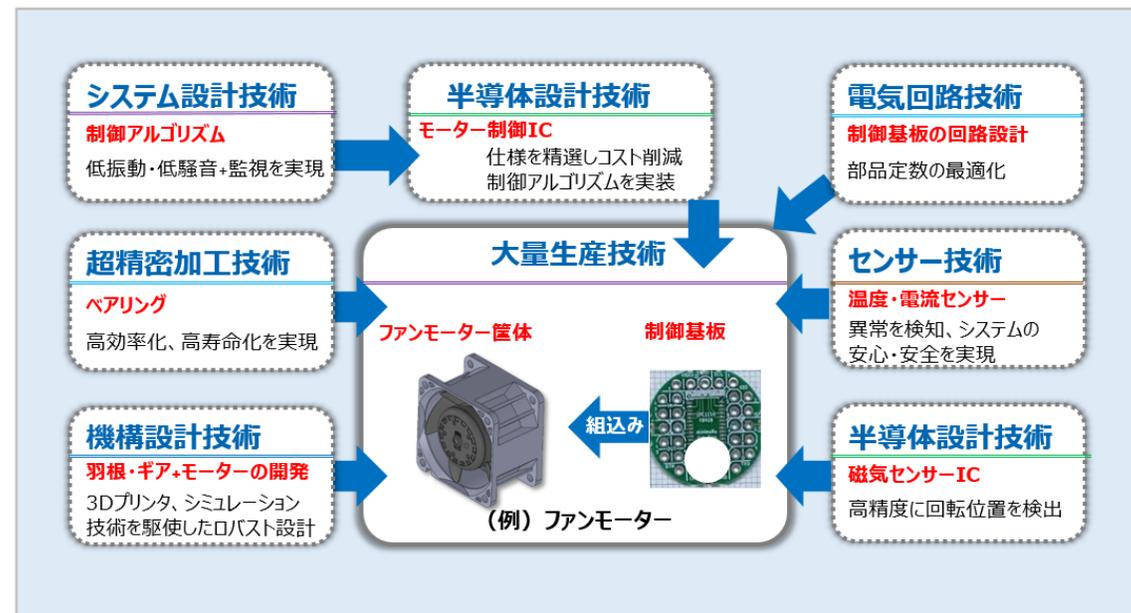
- ・2024年3月期以降の1.5年間で、約150件の相合製品を開発
- ・受注した製品のライフタイムバリューは約300億円  
(「相合部品単位」ベース)
- ・アクセス製品の家電、住設への将来的な応用も検討



### モータードライバーIC

#### 当社独自技術でのモーター関連ワンストップソリューション 使いやすさと高付加価値を追求した「相合」製品

- ・モーター、マイコン付き内製半導体、ソフトウェア、センシングなどを組み合わせ、  
データセンターのホスト側状態をモニタリングする高精度ファンモーターを量産
- ・当社技術の相合でハイマージン製品のラインナップを拡充



200億円以上の営業利益が現実として見込める事業を「槍」と定義し、4本の「槍」が確定  
確定した槍だけで1,400億円以上の営業利益を近い将来見込む！

## 8本槍



### 「槍」の定義とは？

1. 大きな市場の中のニッチ市場であること
2. その製品は簡単な技術革新ではなくなる
3. 当社の強みが活かせる製品であること
4. 「槍」とされる各製品間でシナジー（「相合」）があること

#### 1 ベアリング

営業利益 600億円以上

#### 2 アナログ半導体

営業利益 300億円以上

#### 3 モーター

営業利益 300億円以上

#### 4 アクセス製品

営業利益 200億円以上

#### 5 センサー

#### 6 コネクタ/スイッチ

#### 7 電源

#### 8 無線/通信/ソフトウェア

## 中間配当は前年水準を維持

## 配当金

## 25/3期 配当

中間配当	未定	→	20 円/株
期末配当 (予想)	未定	→	未定

期末配当は、当期の業績を勘案した上で決定の予定  
ただし、期末配当を20円とした場合、配当性向は24.5%  
中長期的なキャッシュアロケーション方針は不変

(ご参考) 24/3期 配当 年間配当40円 (中間配当20円 期末配当20円)

## 自己株式の取得

2024年8月2日に開示した自己株式の取得について、  
8月21日から10月31日まで(約定ベース) の取得状況は下記の通りです。

取得した株式の総数：257.8万株 (上限280万株)

取得価額の総額：7,171.6百万円 (上限10,000百万円)

## 統合報告2024を発行

人的資本の強化、収益性向上の取り組みを中心に、  
当社の企業価値向上に向けた戦略・施策をご紹介します。

当社ウェブサイトでご覧下さい。→



## SBT認証を取得

2031年3月期に向けた当社の温室効果ガス排出削減目標について、  
国際的イニシアチブ「SBTi」からの認定を取得しました。

- ・ Scope1,2 : 2031年3月期までに42%削減 (2023年3月期比)
- ・ Scope3 カテゴリー11\* : 2031年3月期までに25%削減 (2023年3月期比)

\* カテゴリー11 : 販売した製品の使用





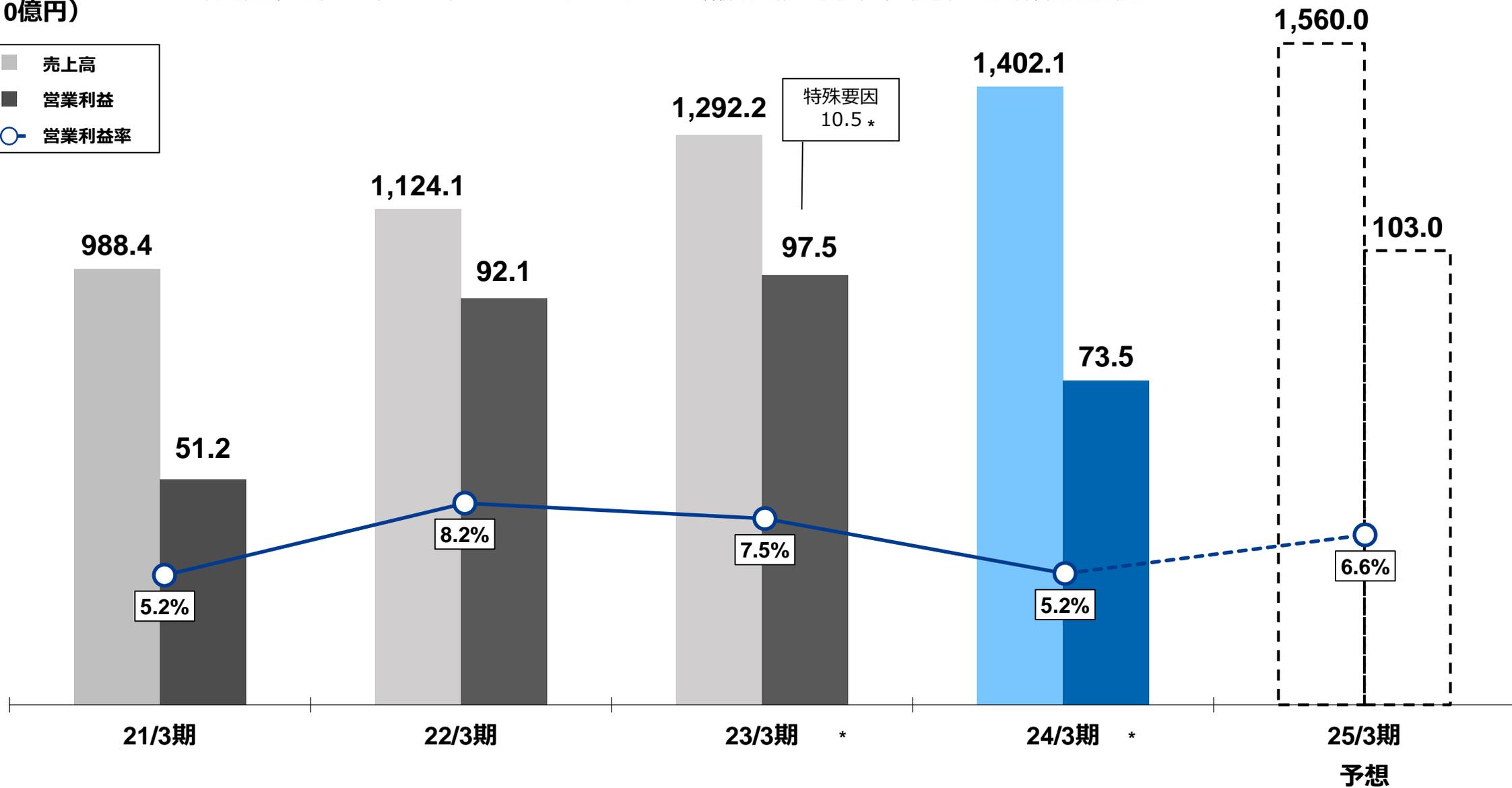
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

# 參考資料

# 売上高、営業利益、営業利益率

\*本多通信工業・ミネベアコネクスト・ミネベア アクセソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

(10億円)

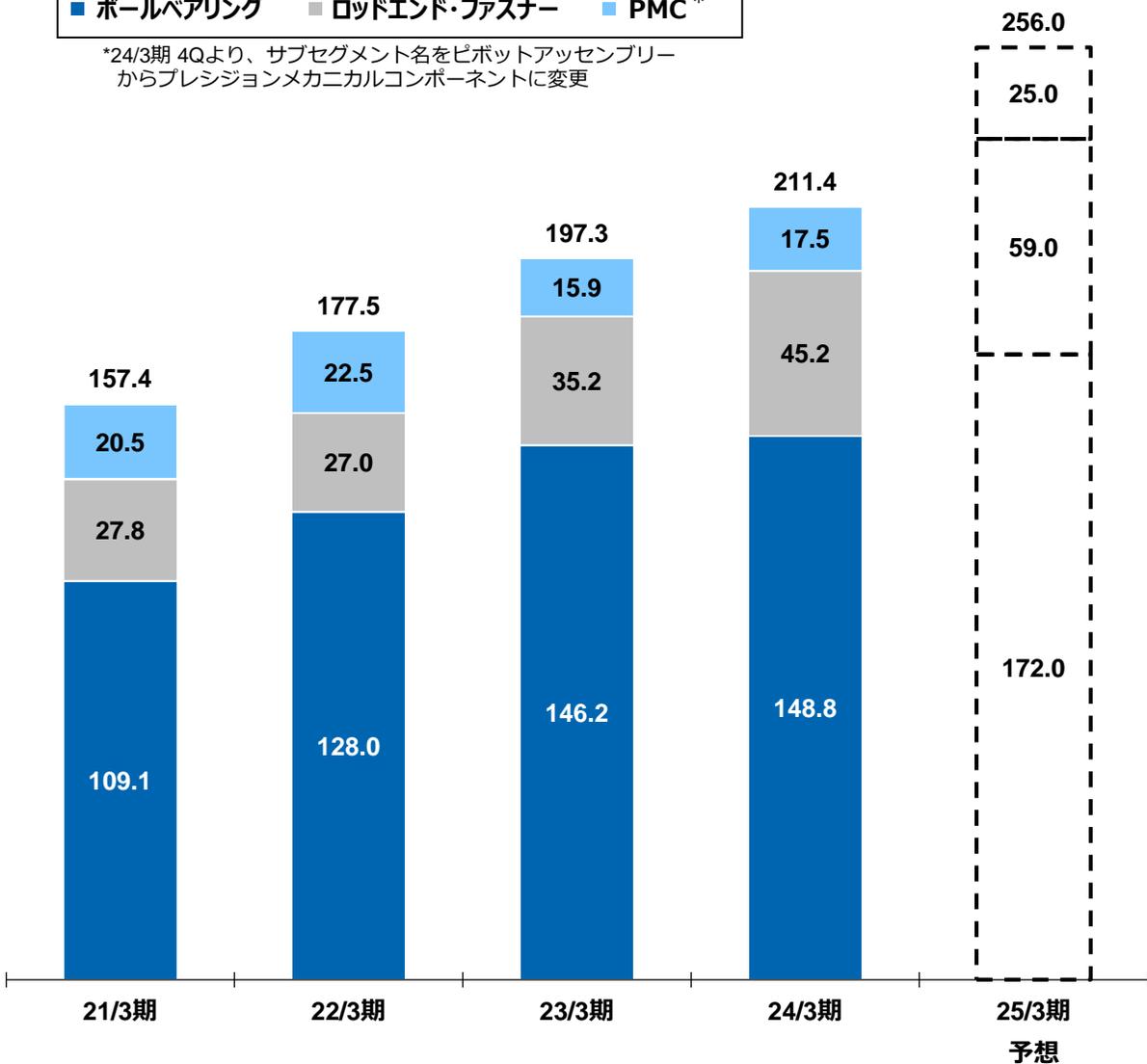


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

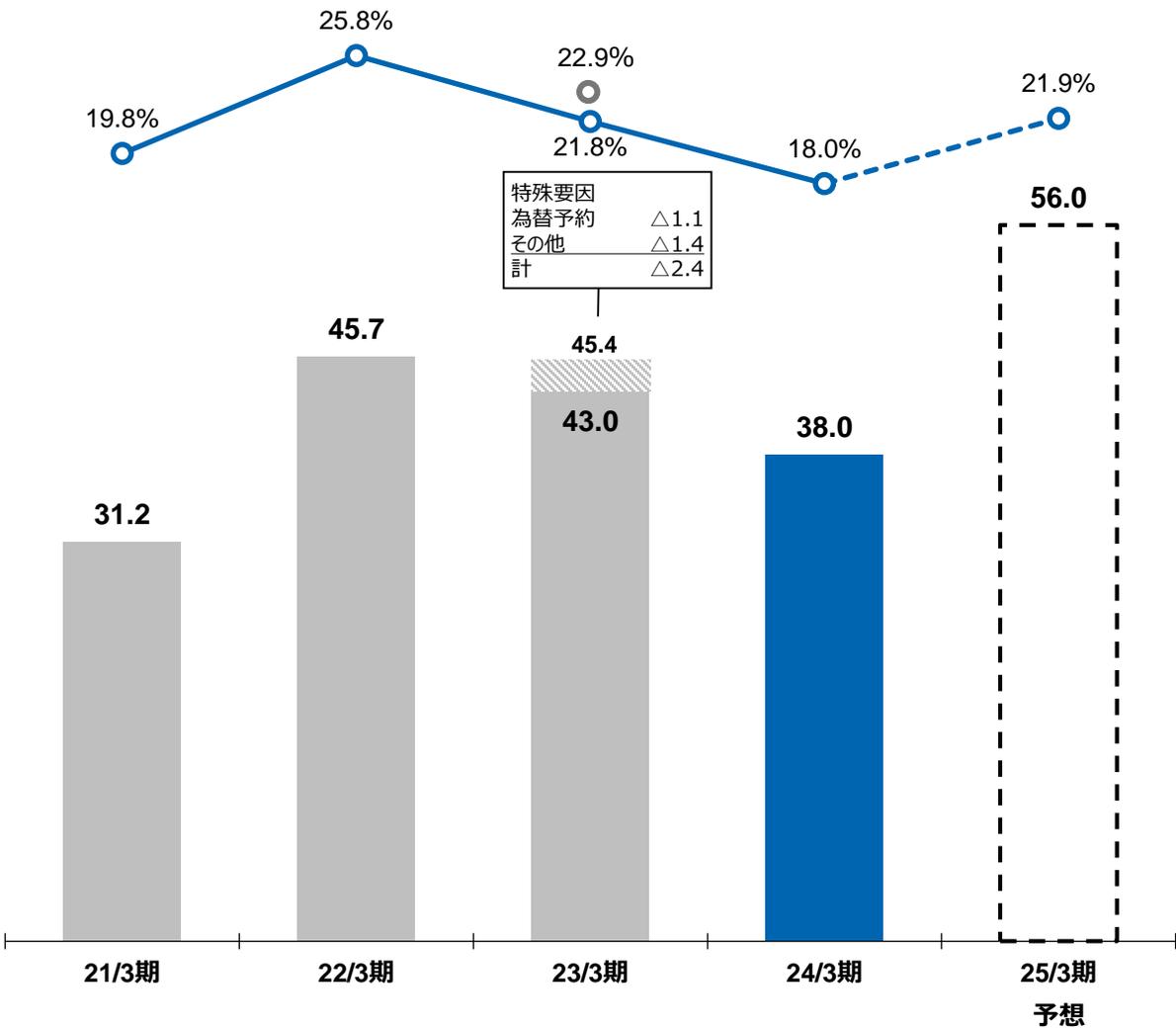
## 売上高 (10億円)



\*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更



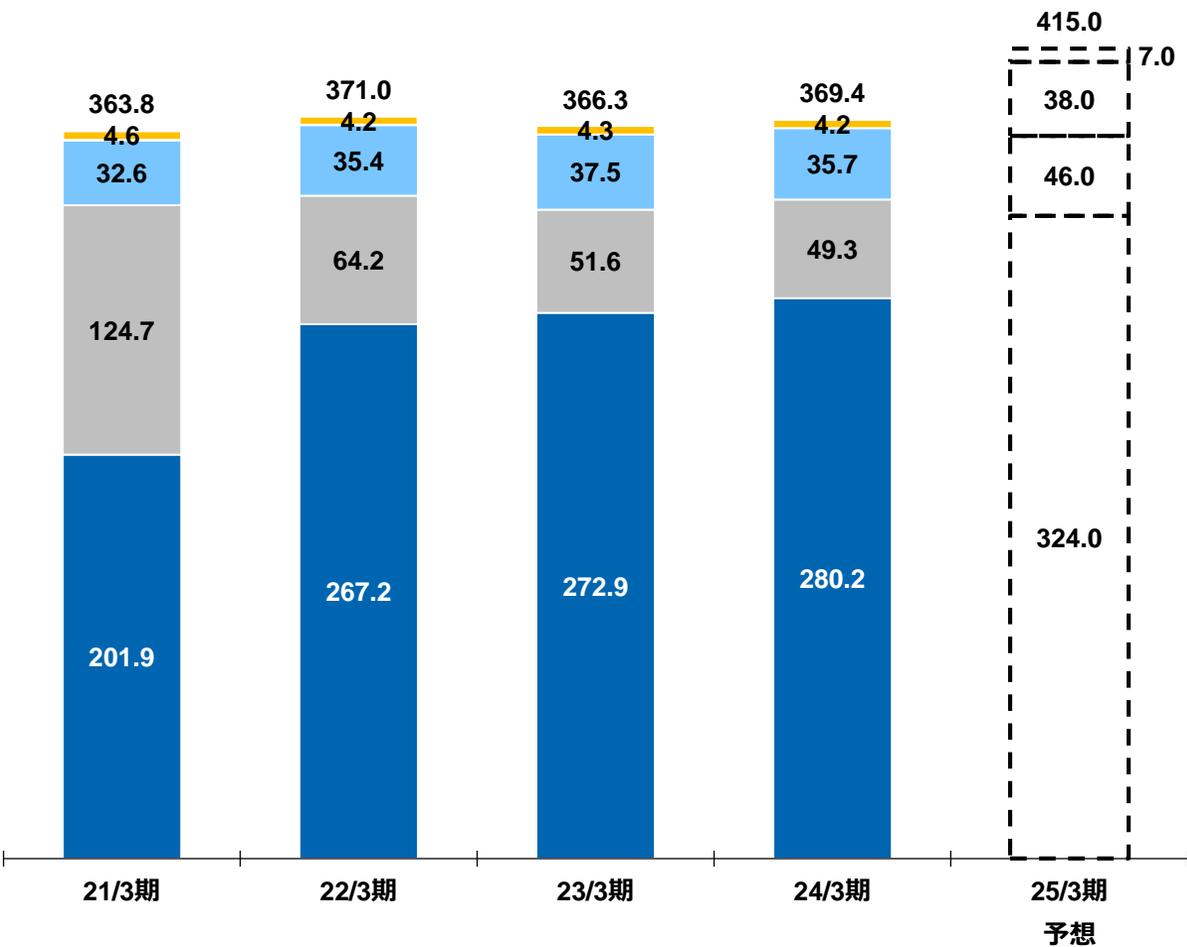
## 営業利益 (10億円)



# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

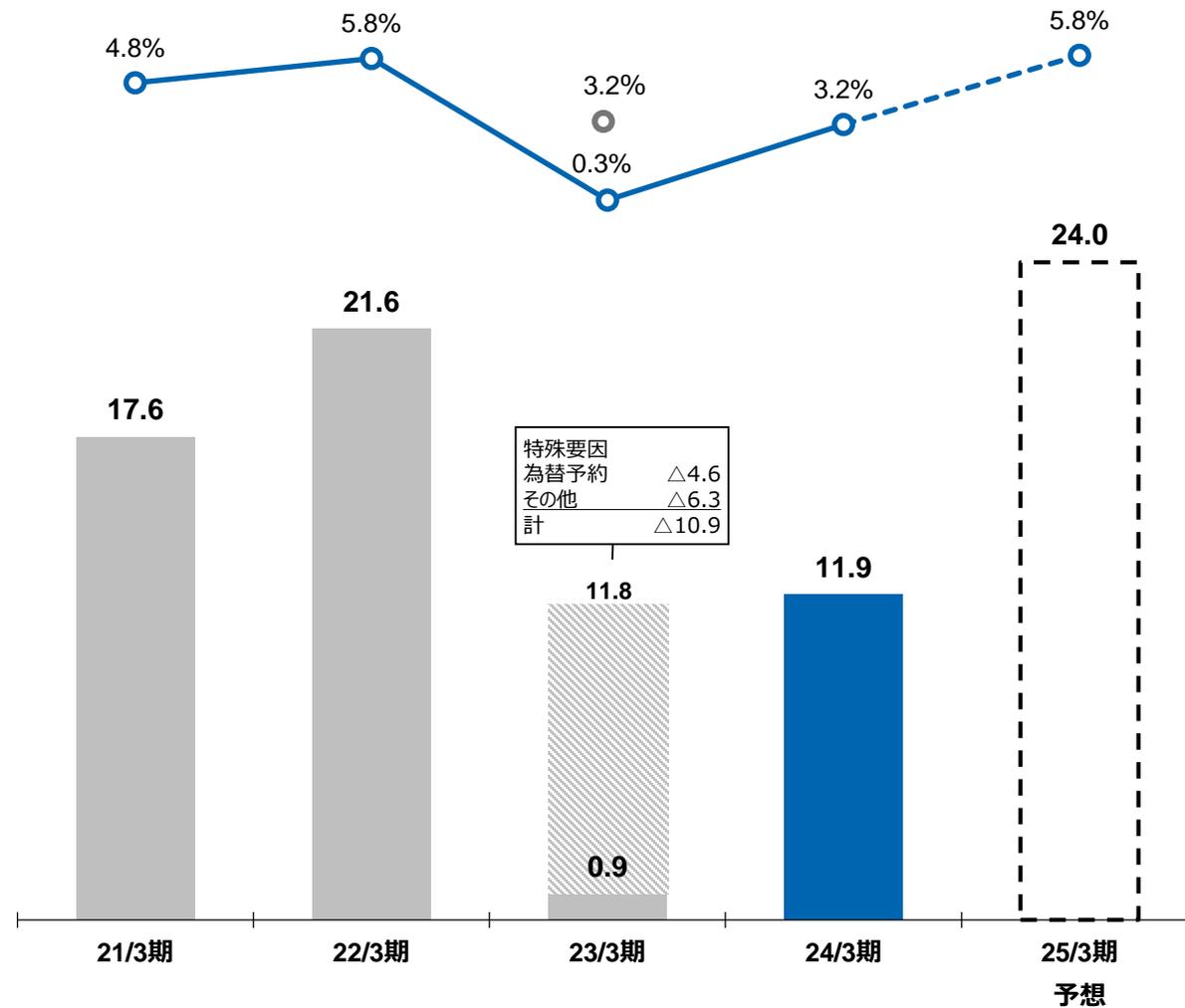
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



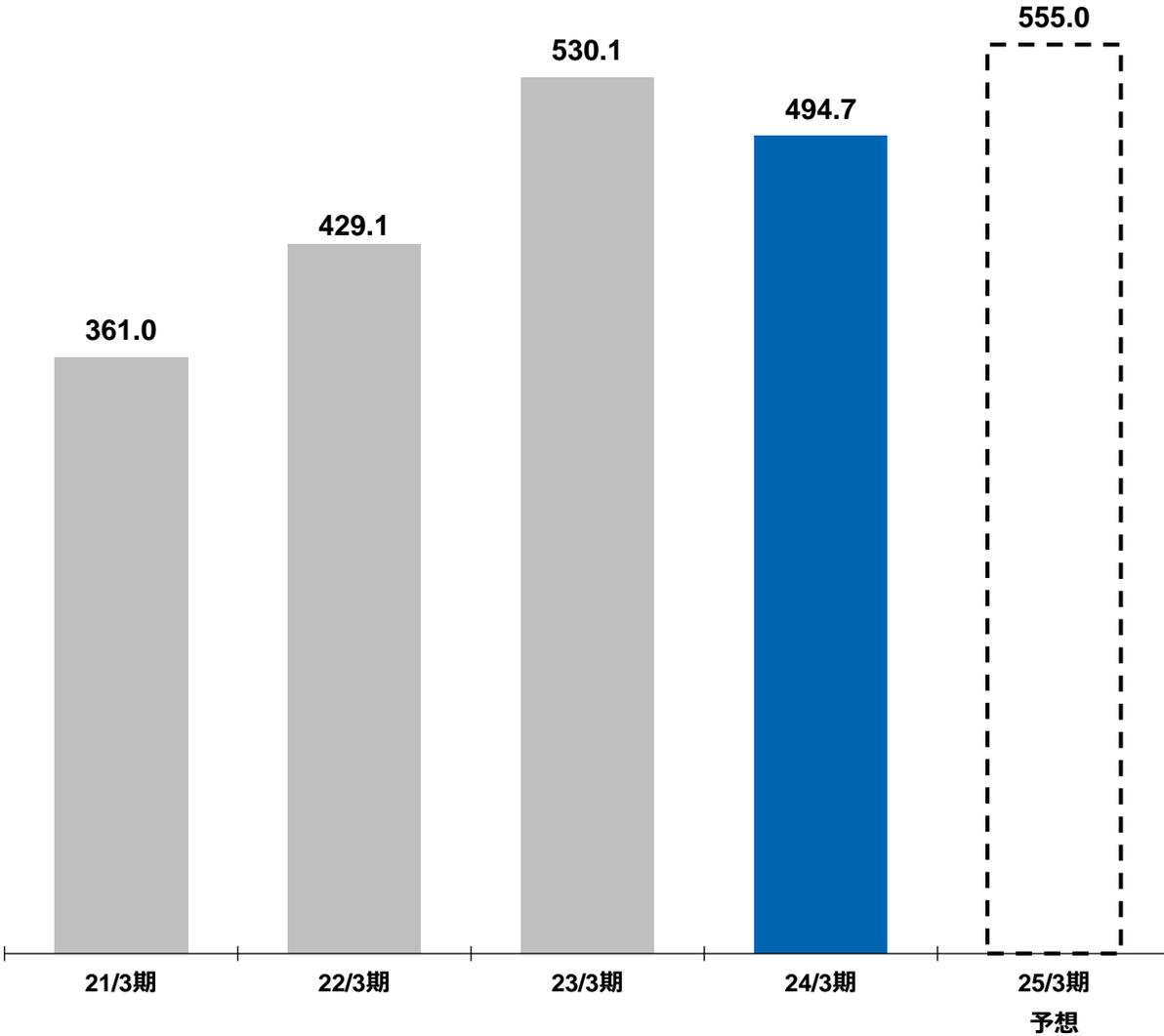
営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

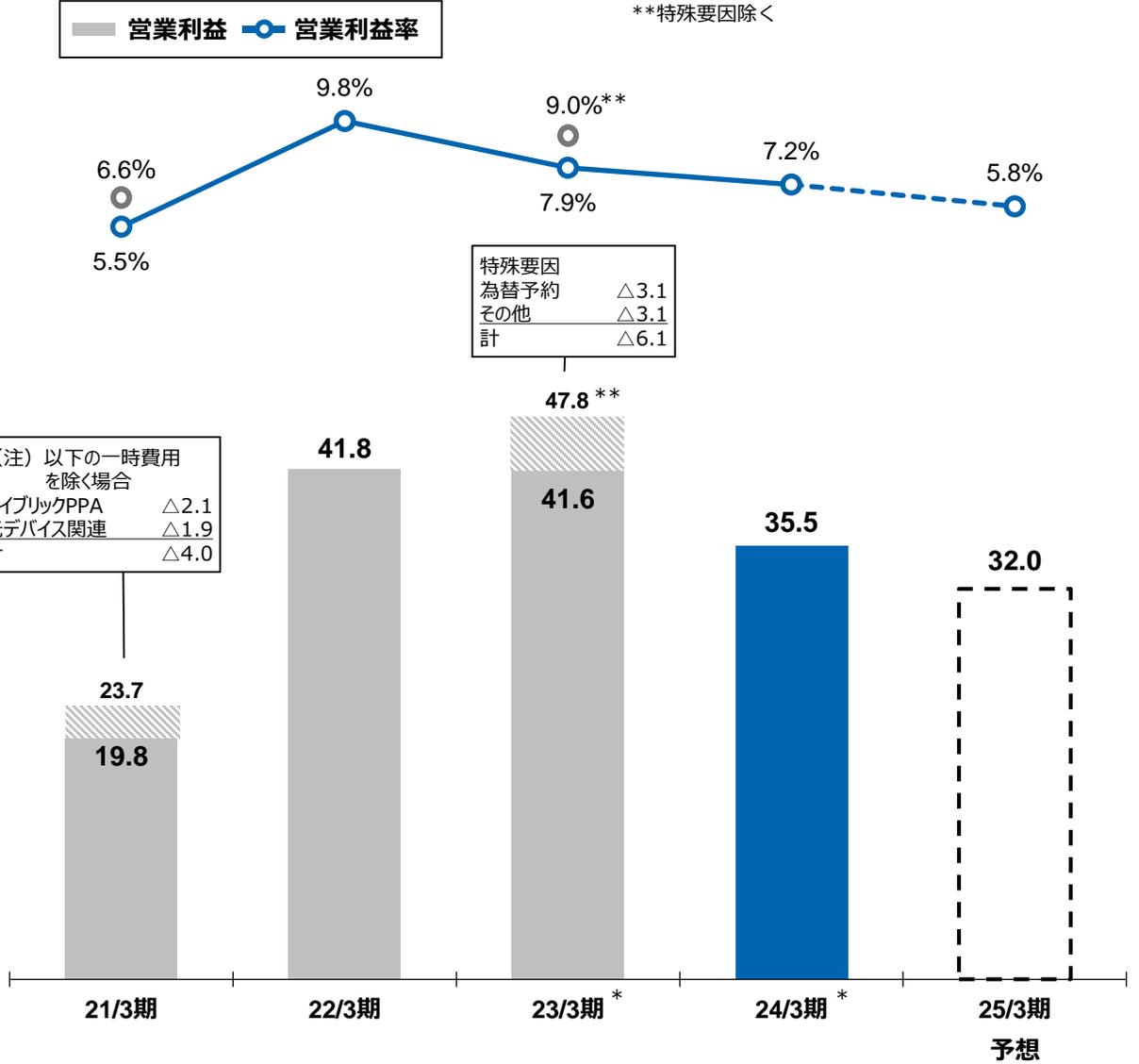


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



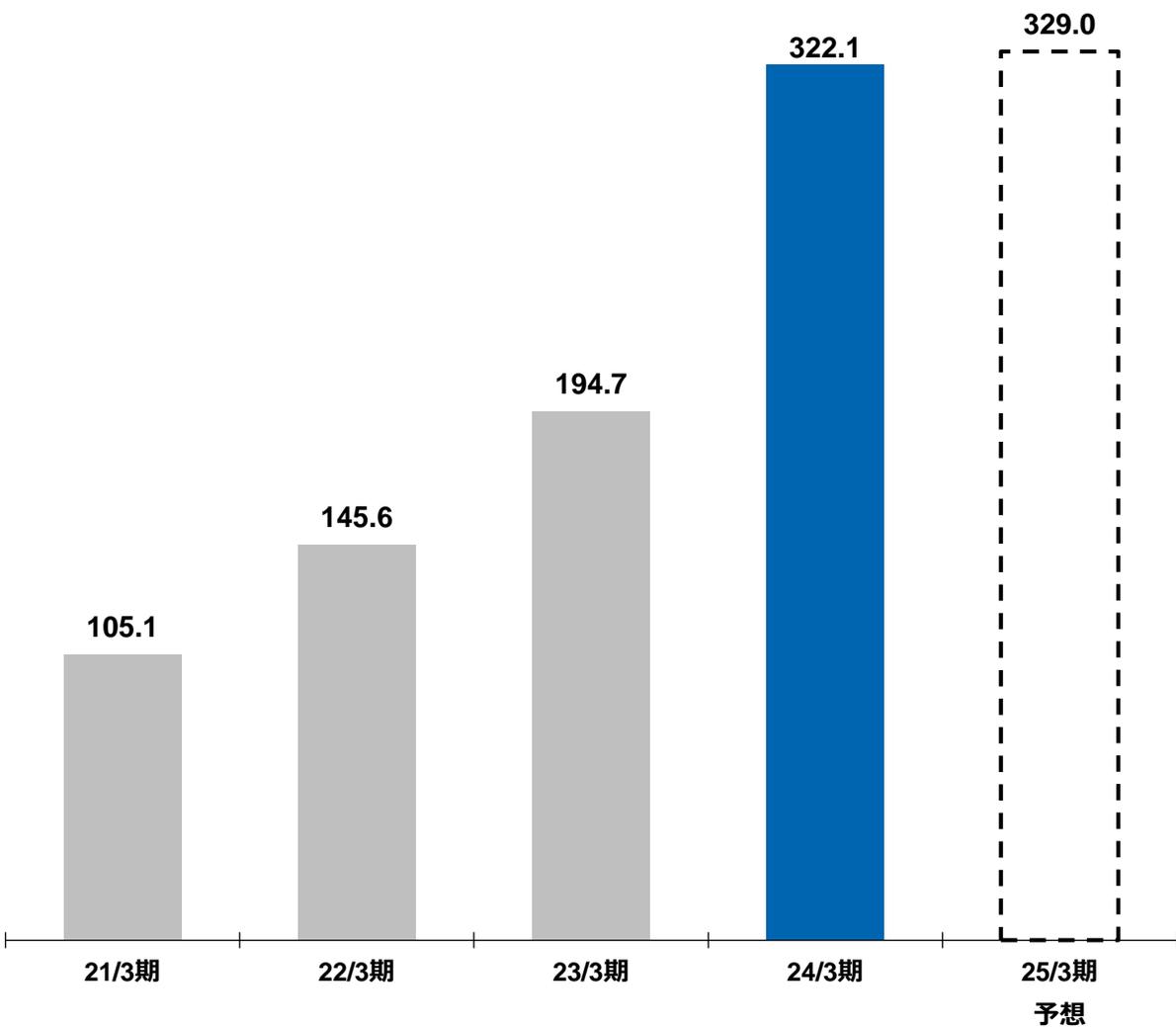
営業利益 (10億円)



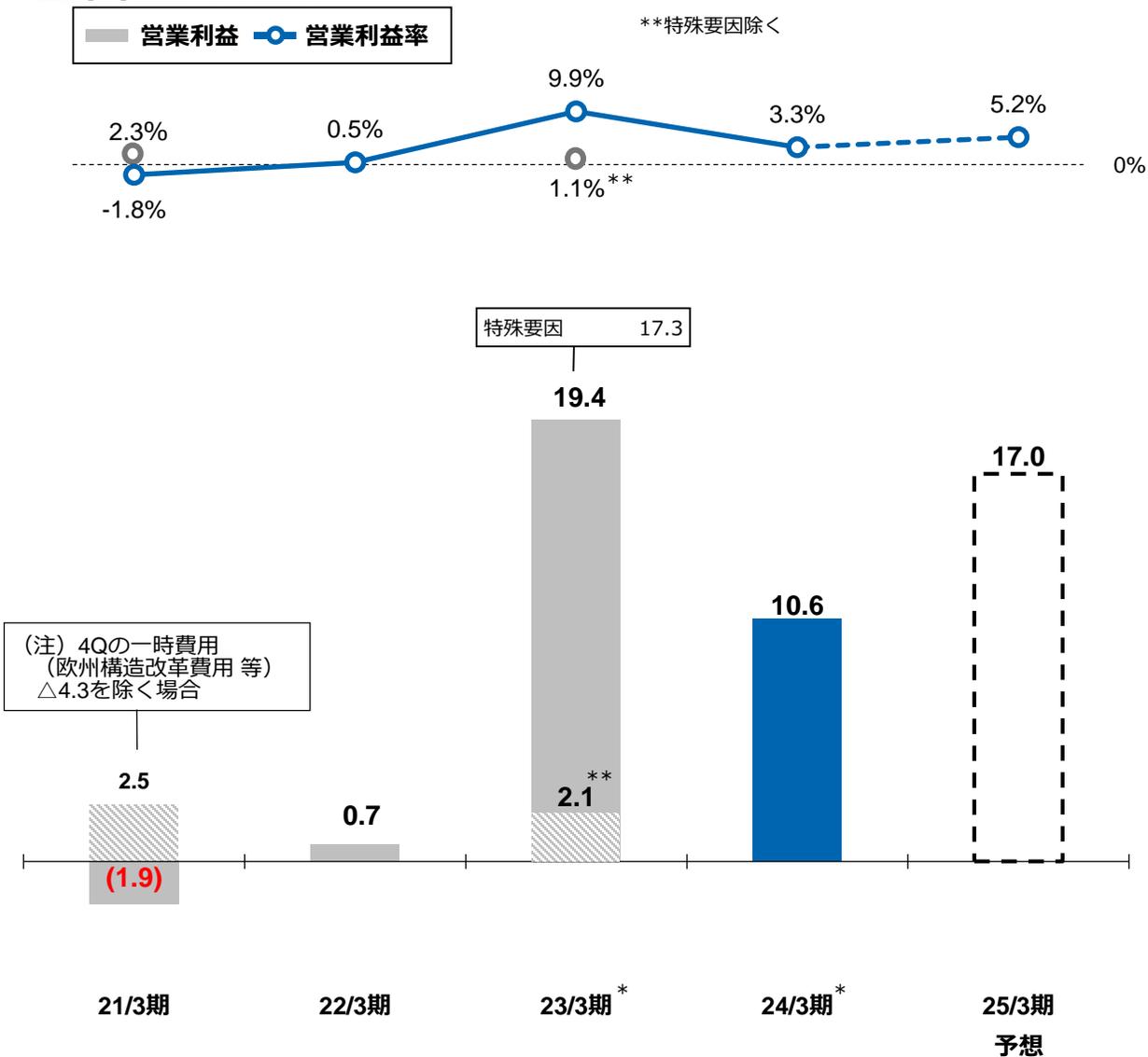
\*本多通信工業・ミネベアコネク트의PPA評価完了に伴い、2024年3月期第2四半期以前の営業利益を遡及修正  
\*\*特殊要因除く

# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

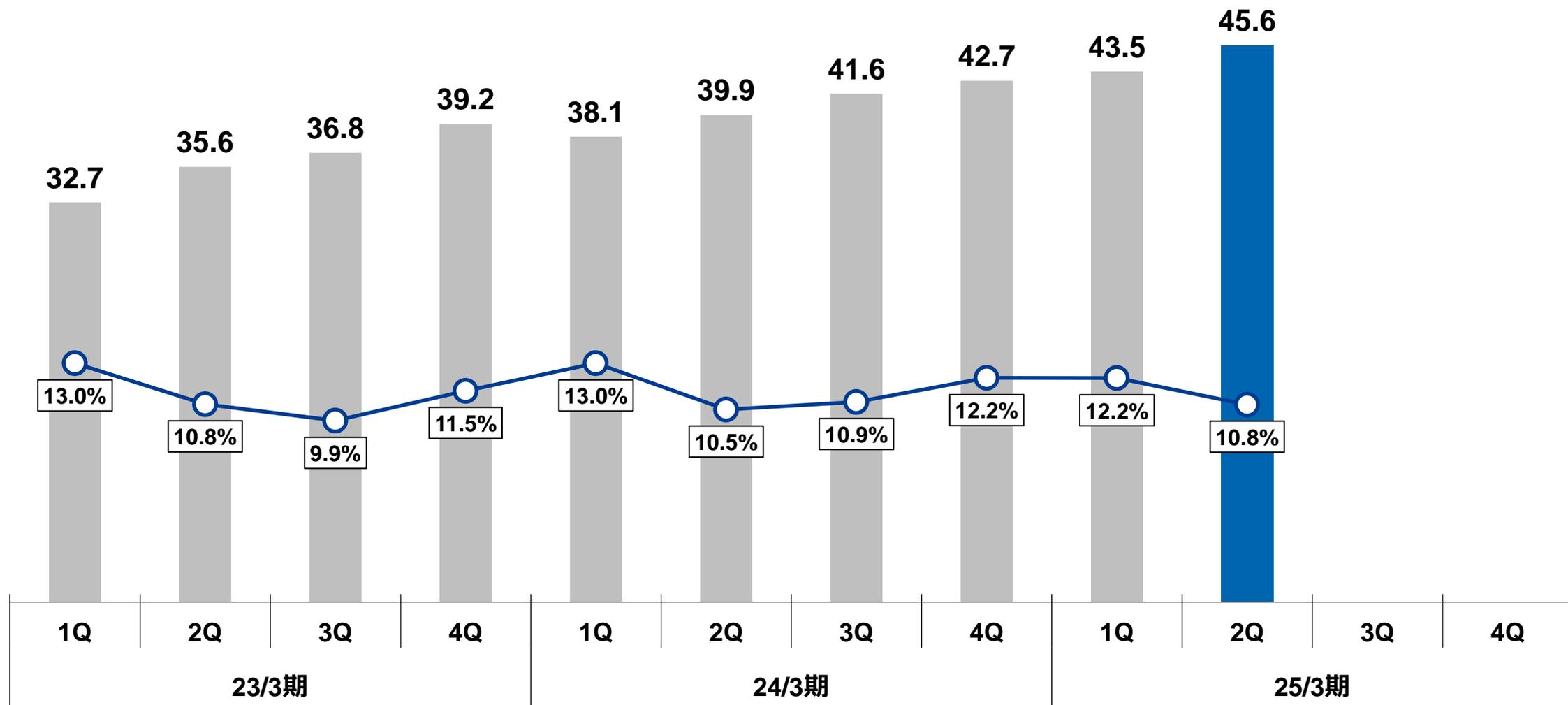


\*ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正  
 \*\*特殊要因除く

# 販管費

(10億円)

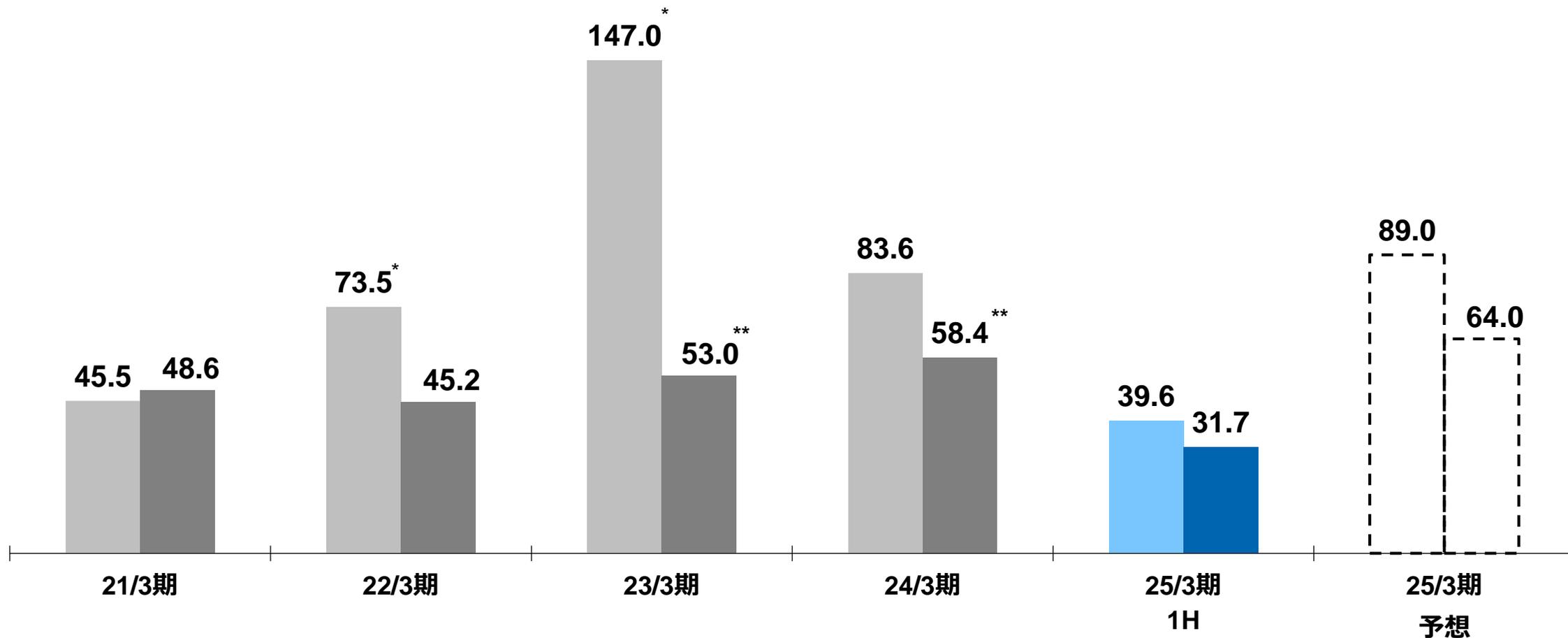
■ 販管費    ● 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



\*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

\*\*本多通信工業・ミネベアコネクト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正。

# ROIC (投下資本利益率)

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産 - 支払手形+買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

